

第5章 第2期白老町障がい児福祉計画

1 目標の設定について

児童福祉法の改正により、平成30年度から市町村は基本指針に即して障害児通所支援や相談支援などの提供体制の確保等に関する実施計画を策定することが義務付けられたことから、障がい児福祉サービス等の数値目標を掲げ、目標達成に向けた取組をしてきました。この度、第1期計画の計画期間が終了することから、国の基本指針及び北海道の基本方針に基づき、新たなサービスの追加や目標値の見直しを行い、今後の障がい児支援の提供体制を次のとおり整備していきます。

障がい児福祉計画の策定に係る国の基本指針及び北海道障がい児福祉計画に基づき、障がい児支援の提供体制の整備等に関し、次のとおりとします。

《国の基本指針》

- ・児童発達支援センターを各市町村に少なくとも1か所設置
- ・難聴児支援のための中核的機能を果たす体制の確保（新）
- ・保育所等訪問支援を利用できる体制を各市町村で構築
- ・主に重症心身障害児を支援する児童発達支援事業所、放課後等デイサービスを各市町村に1か所確保
- ・医療的ケア児支援の協議の場（都道府県、圏域、市町村ごと）の設置及び医療的ケア児等に関するコーディネーターの配置（一部新）

項 目	内 容
難聴児支援体制	難聴のある乳幼児及びその家族の支援のために市町村・医療機関・道立聾学校等が連携し、専門的な支援による乳幼児の発達の促進等を行います。
主に重症心身障がい児を支援する児童発達支援事業所及び放課後等デイサービスの確保	住み慣れた地域で安心して生活するために、身近な地域で心身の状況に応じた支援の場を確保します。
医療的ケア児支援の協議の場の設置とコーディネーターの配置	支援の推進を図るため関係者の協議の場を設置します。 医療的ケア児等コーディネーターを配置し、地域の医療機関や障がい福祉サービス関連分野の支援の調整を行い、障がいのある方本人及びその家族が円滑に必要な支援を受けられる環境を整備します。

《町の現状と考え方》

障がいのある子どもについては、教育、保育等の利用状況を踏まえ、障害児通所支援等の専門的な支援を受ける体制を確保するとともに、障がい児及びその家族に対して、乳幼児期から学校卒業までの一貫した支援を身近な場所で提供する体制を構築することが重要です。

その方策として、地域支援体制の構築、保育、保健医療、教育、就労支援等の関係機関と連携した支援、地域社会への参加、包容（インクルージョン）の推進、特別な支援が必要な子どもへの支援体制の整備、障害児相談支援への提供の確保などが考えられます。

国の基本方針で示されている各項目については、本町において、対象児がいない現体制で類似の対応が可能等であることから、今後の必要性に応じ体制の整備を検討していきます。

2 障がい児福祉サービス等の実績・見込み量

（１） 児童発達支援

障がいのある乳幼児の日常生活における基本的な動作の指導、集団生活への適応訓練等を行います。

（単位：上段 月延べ利用人数、下段 月実利用人数）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
見込量	106名	109名	112名	120名	120名	120名
	32名	33名	34名	35名	35名	35名
実績	94名	74名	94名	-	-	-
	35名	28名	25名	-	-	-

*実績欄平成30年～令和2年度は各年度10月実績。

平成30年度はほぼ見込量のとおり的人数実績でしたが、令和元年度は新型コロナウイルスの影響により、若干の減少となっております。令和2年5月に新たに事業所も開設され、今後も一定数の利用が見込めるため、第1期計画よりも月延べ利用人数を若干増加としました。

（２）放課後等デイサービス

学校通学中の障がい児が、放課後や夏休み等の長期休暇中において、生活能力向上のための訓練等を継続的に提供することにより、学校教育と相まって障がい児の自立を促進するとともに、放課後等の居場所づくりを行います。

（単位：上段 月延べ利用人数、下段 月実利用人数）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
見込量	12名	14名	16名	540名	576名	612名
	6名	7名	8名	30名	32名	34名
実績	45名	39名	380名	-	-	-
	6名	4名	21名	-	-	-

*実績欄の平成30年度、令和元年度は年度末実績。令和2年度については、10月現在実績。

平成30年、令和元年度の利用実績はほぼ見込み量のとおりでしたが、1人あたりの利用回数増加により延べ利用者数が見込み量を上回りました。

令和2年5月に新たに事業所も開設され、利用者が大幅に増えたことから、現状の利用者数を踏まえ、今後の利用者を大幅増加としました。

（３）保育所等訪問支援

保育、幼稚園等に通う子どもに対して、療育指導を実施する施設の指導員が、実際に通う保育所等を訪問して集団療育等の専門的な支援を行います。

（単位：上段 月延べ利用人数、下段 月実利用人数）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
見込量	—	—	—	検討中		
	—	—	—			
実績	-	—	—	-	-	-
	—	—	—	-	-	-

*実績欄の平成30年度、令和元年度は年度末実績。令和2年度については、10月現在実績。

現在、保育所等訪問支援を行っている事業所はなく、見込み量、実績ともにありませんが、療育機関が年数回定期的に園を訪問し、対象児の行動観察を行い、保育士等への関わり方のアドバイスなど支援を行っています。

今後はニーズに応じ、実施基準を満たす体制の整備を検討していきます。

(4) 居宅訪問型児童発達支援

重度障がいの状況にあり、外出が困難な障がい児であって、障害児通所支援を利用するために外出することが著しく困難な障がい児に発達支援が提供できるように障がい児の居宅を訪問して発達支援を行います。

(単位：上段 月延べ利用人数、下段 月実利用人数)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
見込量	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—
実績	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—

*ニーズに応じ体制を検討。

第1期計画においては対象となる児童がいないため、見込み量の設定をしませんでした。現在も対象児童はいないため、見込み量は設定しませんが、今後必要に応じ体制整備を検討していきます。

(5) 障がい児相談支援

障がい児が障害児通所支援(児童発達支援・放課後等デイサービス等)を利用する前に障害児支援利用計画を作成し(障害児支援利用援助)、通所支援開始後は、一定期間ごとにモニタリングを行う(継続障害児支援利用援助)等の支援を行います。

(年間利用者数)

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
見込量	40名	42名	43名	52名	54名	56名
実績	48名	40名	50名	—	—	—

*実績欄の平成30年度、令和元年度は年度末実績。令和2年度については、10月現在実績。

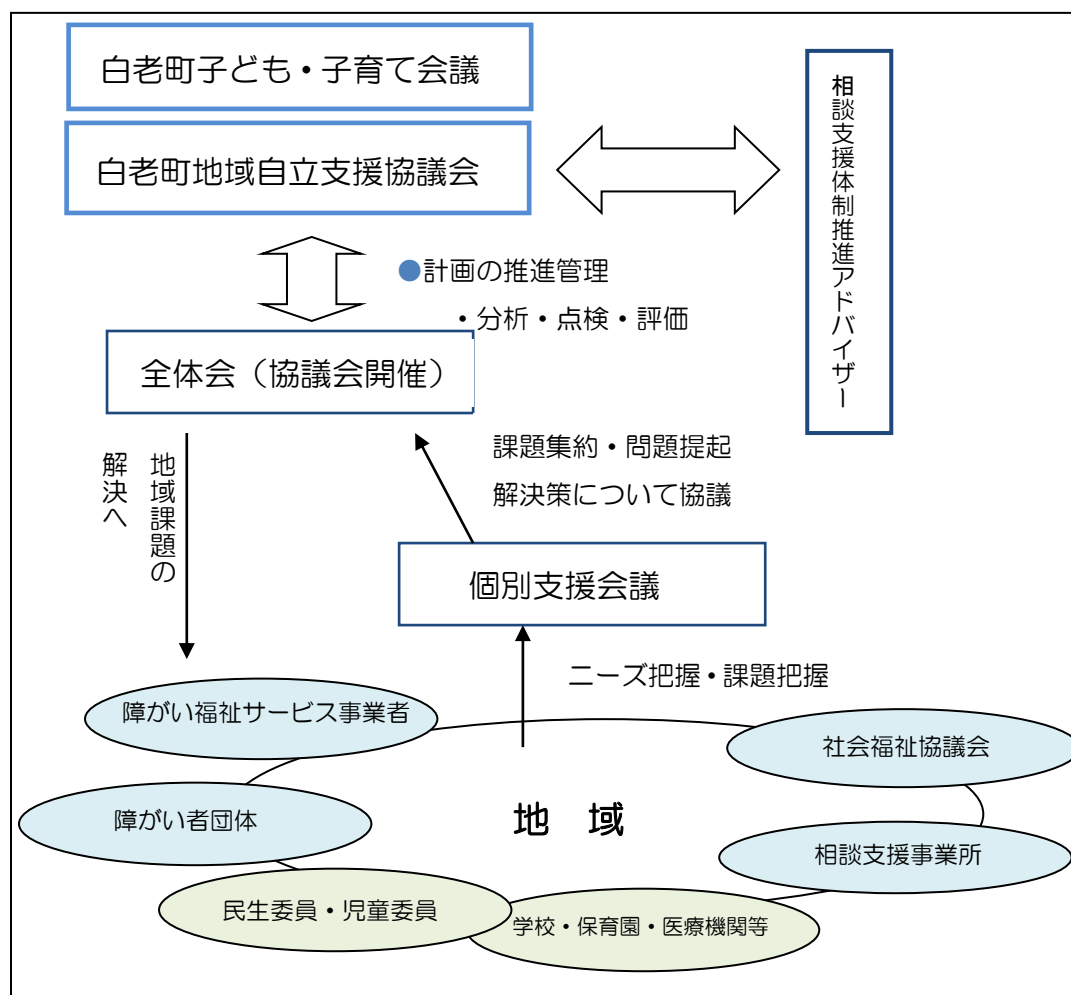
平成30年度は見込み量より多い利用でしたが、令和元年度実績は見込み量を下回りました。令和2年度は5月に、新たに児童発達支援・放課後等デイサービス事業所が開設されたことから新規の利用者が増えています。令和3年度以降は、現状の利用状況を踏まえ、年2名ずつ増加としました。

第6章 計画の推進管理

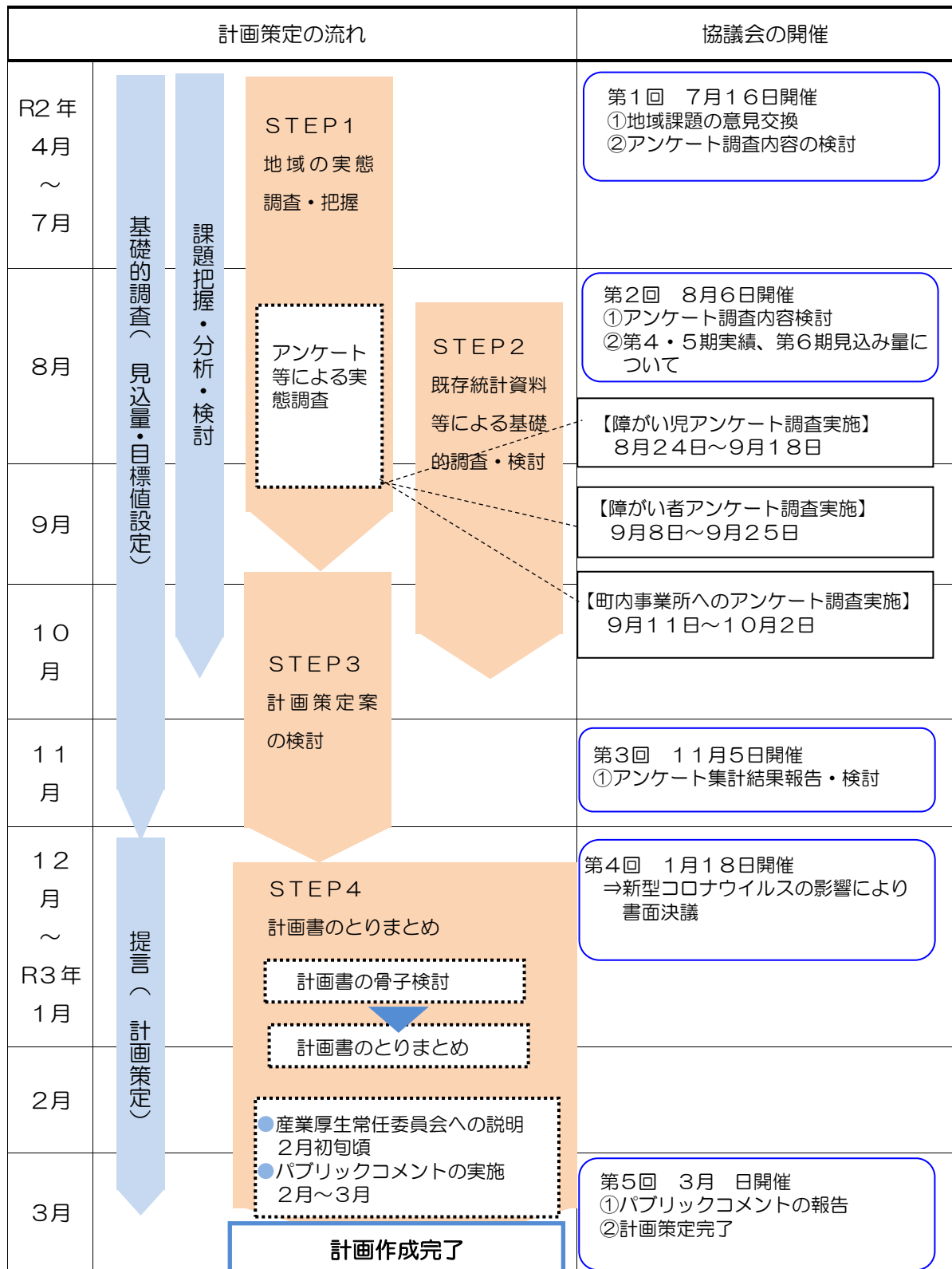
● 計画の推進管理

この計画を進めていく内容は、福祉、保健、医療、教育、住宅、雇用、生活環境等、生活のあらゆる場面にわたっており、その理念を実現していくためには、さまざまな団体や市民の参画が不可欠です。その中心を担うのは、地域の障がいのある方に関する関係機関等から成る組織である「白老町地域自立支援協議会」となります。

また、本計画の取組やサービスの実行性を高めるためには、計画の進捗状況や取り組み内容の充実、見込み量やその確保のための方策のあり方について、当事者や関係団体の意見やニーズを把握に努め、適宜、計画内容の検証を進め、次期計画の策定へとつなげていきます。



計画策定の経過



白老町地域自立支援協議会委員名簿

	委員氏名	所 属
会 長	堂 前 文 男	身体障がい者福祉協会白老町支部 支部長
副 会 長	吉 良 哲 子	白老町婦人団体連絡協議会
委 員	佐 藤 春 光	しらおい障がい者と手をつなぐ会 副会長
委 員	尾 美 香	白老町精神障害者家族会（はまなす会）会長
委 員	庭 山 了	白老町社会福祉協議会 常務理事
委 員	佐 藤 秀 幸	北海道リハビリテーションセンター療護部 相談課長
委 員	一 間 新 平	白老宏友会「みらいえ」 施設長
委 員	吉 田 末 治	白老町民生委員児童委員協議会 会長

●事務局員

所 属	職 名	氏 名
健 康 福 祉 課	課 長	久 保 雅 計
	主 幹	定 岡 あゆみ
	主 査（社会福祉士）	山 越 大 二
子 育 て 支 援 課	課 長	渡 辺 博 子
	子ども発達支援センター長	鈴 木 晶

障がい者・障がい児アンケート及び 町内障がい福祉サービス提供法人・事業所等アンケート調査結果

本計画の策定にあたって、障害者手帳所持者300名及び、発達に支援が必要な児童及びそのご家族の皆様69名に対し町民アンケート調査を実施、また、町内障がい福祉サービス提供法人・事業所等に対しアンケート調査を実施し、障がいのある方が抱える課題や今後の取り組みなどについて実態調査を行いました。

【障がい者アンケート】・・・資料1

実施日 令和2年9月8日～9月25日

対象者 18歳以上の町民で、身体障害者手帳、精神保健福祉手帳、療育手帳所持者より無作為抽出

回収状況 回収数185／配布数300（回収率61.7％）

【障がい児アンケート】・・・資料2

実施日 令和2年8月24日～9月18日

対象者 児童発達支援・放課後等デイサービス利用児童の保護者、小中学校特別支援学級通級児童の保護者

回収状況 回収数 45／配布数 69（回収率65.2％）

【事業所アンケート調査】・・・資料3

実施日 令和2年9月11日～10月2日

対象事業所 町内障がい福祉サービス提供法人・事業所等

回収状況 回収数 12／配布数 12（回収率100％）

《調査概要》

障がいのある方の福祉に関する計画をつくるにあたり、このアンケートを実施しました。

- ① 調査対象
＞ 18歳以上の白老町民で、障がいのある方
- ② 調査対象人数
＞ 300名（無作為抽出）
- ③ 調査方法
＞ 郵送による調査
- ④ 調査期間
＞ 発送：令和2年9月8日（火） 締切：令和2年9月25日（金）
- ⑤ 回収数（率）
＞ 185枚（61.7%）



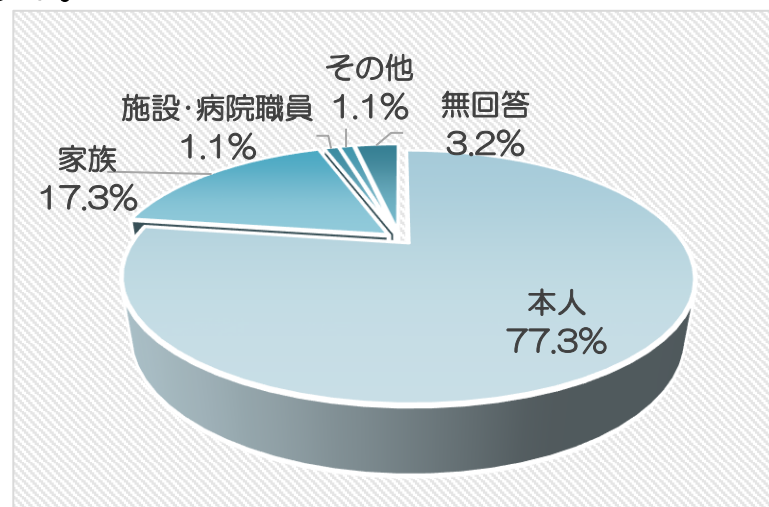
<<調査結果>>

1 回答者の属性

問1. このアンケートにお答えいただくのはどなたですか。

回答者	件数	%
本人	143	77.3%
家族	32	17.3%
施設・病院職員	2	1.1%
その他	2	1.1%
無回答	6	3.2%

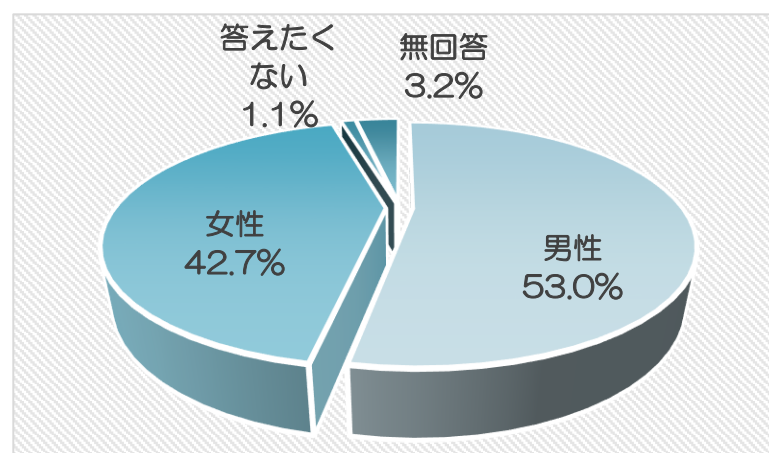
※合計が100%とならない場合があります。



問2. あなたの性別を教えてください。

性別	件数	%
男性	98	53.0%
女性	79	42.7%
答えたくない	2	1.1%
無回答	6	3.2%

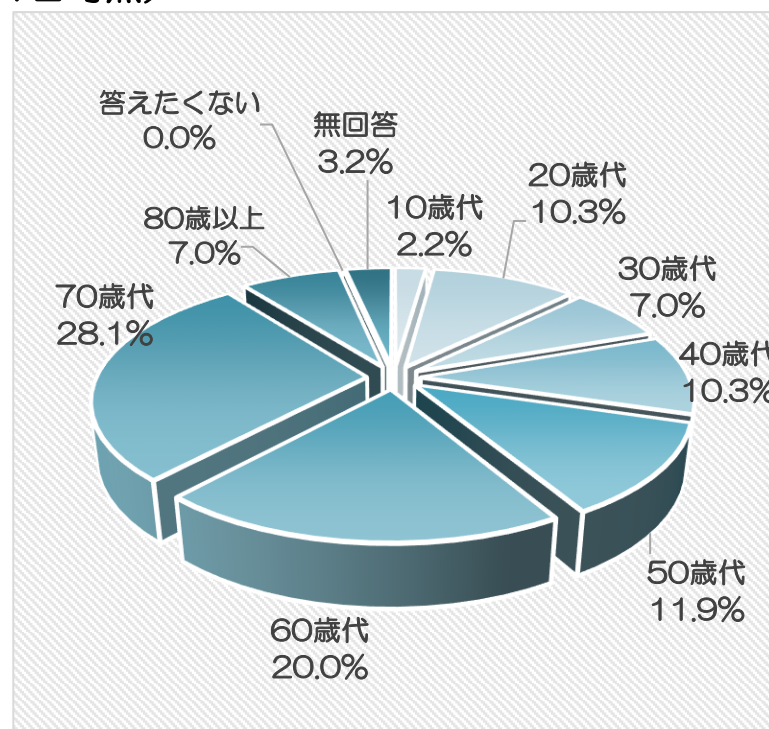
※合計が100%とならない場合があります。



問3. あなたの年代を教えてください。（令和2年8月1日時点）

年代	件数	%
10歳代	4	2.2%
20歳代	19	10.3%
30歳代	13	7.0%
40歳代	19	10.3%
50歳代	22	11.9%
60歳代	37	20.0%
70歳代	52	28.1%
80歳以上	13	7.0%
答えたくない	0	0.0%
無回答	6	3.2%

※合計が100%とならない場合があります。

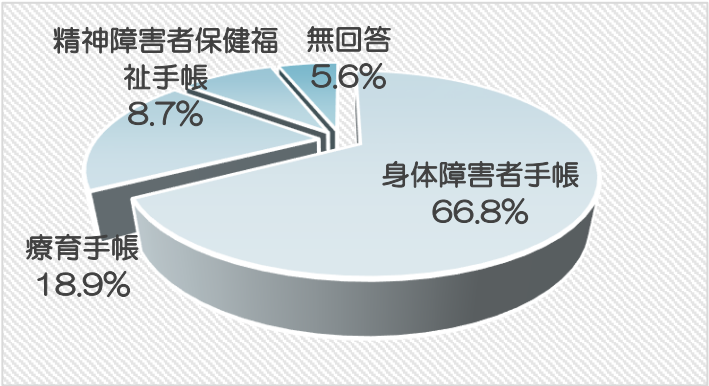


「70歳代」(28.1%)が最も多く、以下「60歳代」(20.0%)、「50歳代」(11.9%)の順となっている。

問4. あなたは次のうち、どの手帳をお持ちですか。（該当する全てに○）

種類	件数	%
身体障害者手帳	131	66.8%
療育手帳	37	18.9%
精神障害者保健福祉手帳	17	8.7%
無回答	11	5.6%

※合計が100%とならない場合があります。

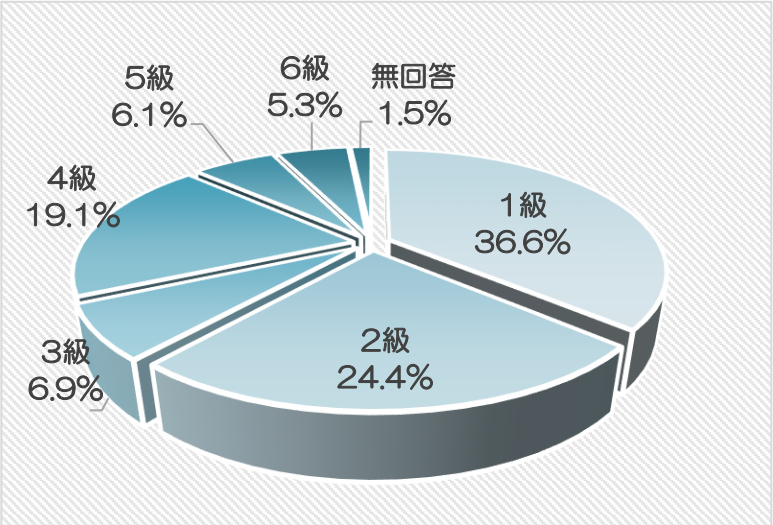


▶「身体障害者手帳」をお持ちの方にお伺いします。

▷問4-①. 障がい等級は何級ですか。

等級	件数	%
1級	48	36.6%
2級	32	24.4%
3級	9	6.9%
4級	25	19.1%
5級	8	6.1%
6級	7	5.3%
無回答	2	1.5%

※合計が100%とならない場合があります。

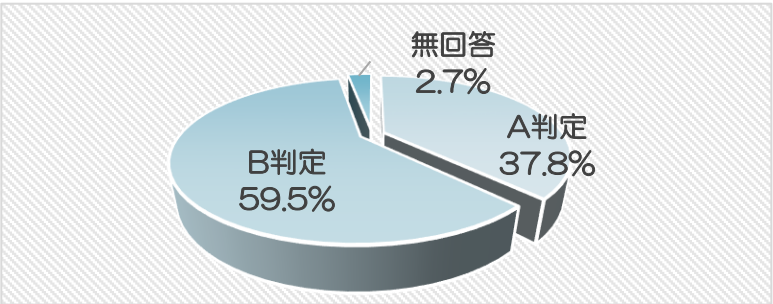


▶「療育手帳」をお持ちの方にお伺いします。

▷問4-②. 障がい判定は何判定ですか。

判定	件数	%
A判定	14	37.8%
B判定	22	59.5%
無回答	1	2.7%

※合計が100%とならない場合があります。

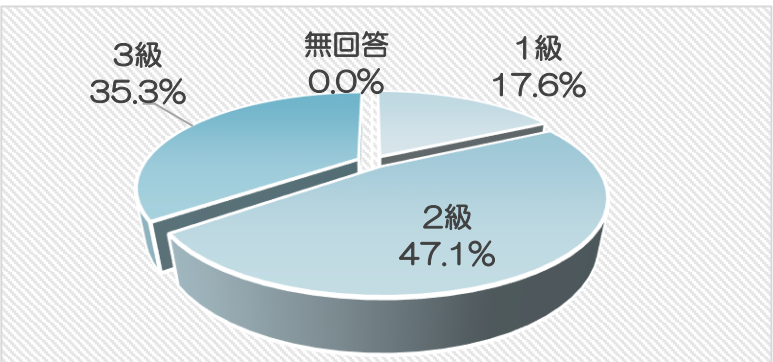


▶「精神障害者保健福祉手帳」をお持ちの方にお伺いします。

▷問4-③. 障がい等級は何級ですか。

等級	件数	%
1級	3	17.6%
2級	8	47.1%
3級	6	35.3%
無回答	0	0.0%

※合計が100%とならない場合があります。



回答数は「身体障害者手帳」(66.8%)が最も多く、以下「療育手帳」(18.9%)、「精神障害者保健福祉手帳」(8.7%)の順となっている。

身体障害者手帳をお持ちの方のうち、等級は「1級」(36.6%)が最も多く、以下「2級」(24.4%)、「4級」(19.1%)の順となっている。

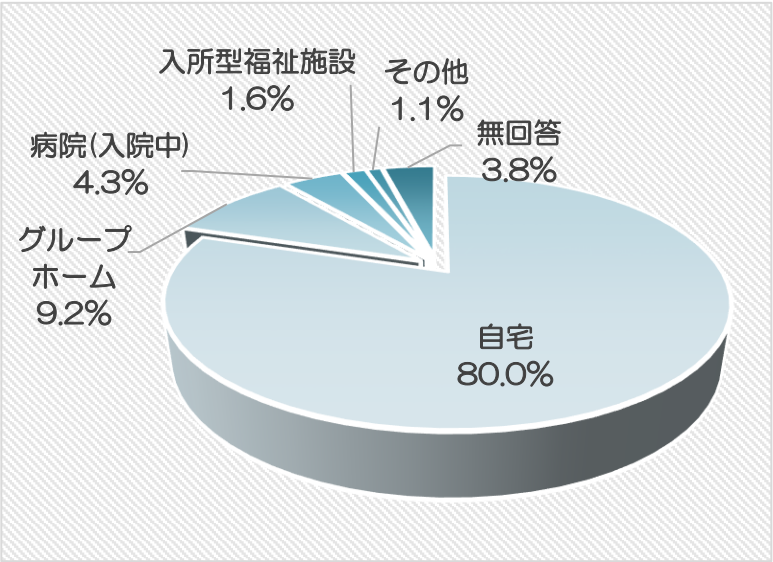
療育手帳をお持ちの方のうち、判定は「B判定」(59.5%)が最も多く、以下「A判定」(37.8%)、「無回答」(2.7%)の順となっている。

精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方のうち、等級は「2級」(47.1%)が最も多く、以下「3級」(35.3%)、「1級」(17.6%)の順となっている。

問5. 現在、あなたはどこで生活をされていますか。

拠点	件数	%
自宅	148	80.0%
グループホーム	17	9.2%
病院(入院中)	8	4.3%
入所型福祉施設	3	1.6%
その他	2	1.1%
無回答	7	3.8%

※合計が100%とならない場合があります。



「自宅」(80.0%)が最も多く、以下「グループホーム」(9.2%)、「病院(入院中)」(4.3%)の順となっている。

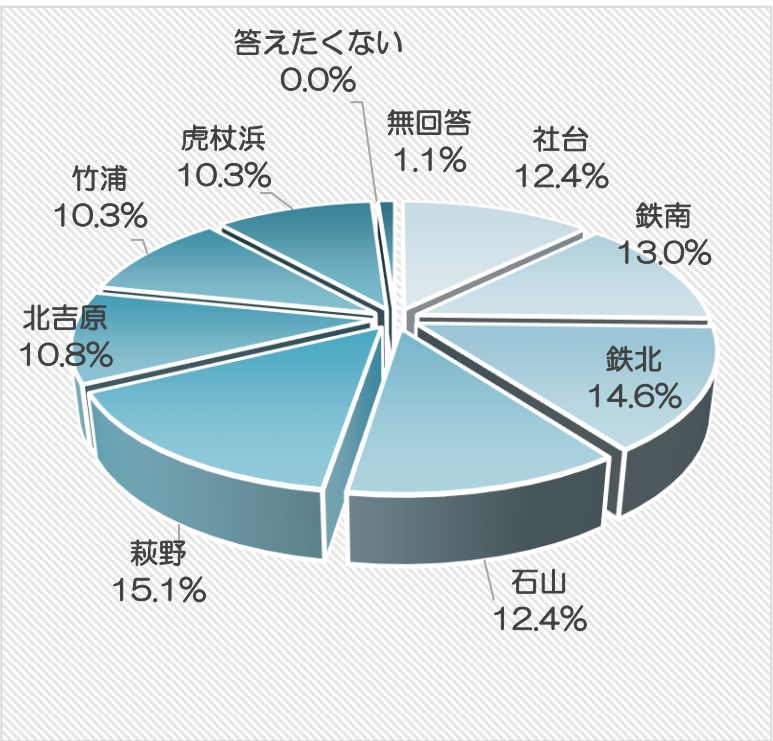
問6. あなたのお住まいの地域を教えてください。

地域	件数	%
社台	23	12.4%
鉄南(※2)	24	13.0%
鉄北(※3)	27	14.6%
石山	23	12.4%
萩野	28	15.1%
北吉原	20	10.8%
竹浦	19	10.3%
虎杖浜	19	10.3%
答えたくない	0	0.0%
無回答	2	1.1%

※合計が100%とならない場合があります。

※2 日の出町、東町、大町、高砂町

※3 若草町、末広町、緑丘、栄町、本町、陣屋町、緑町、字白老

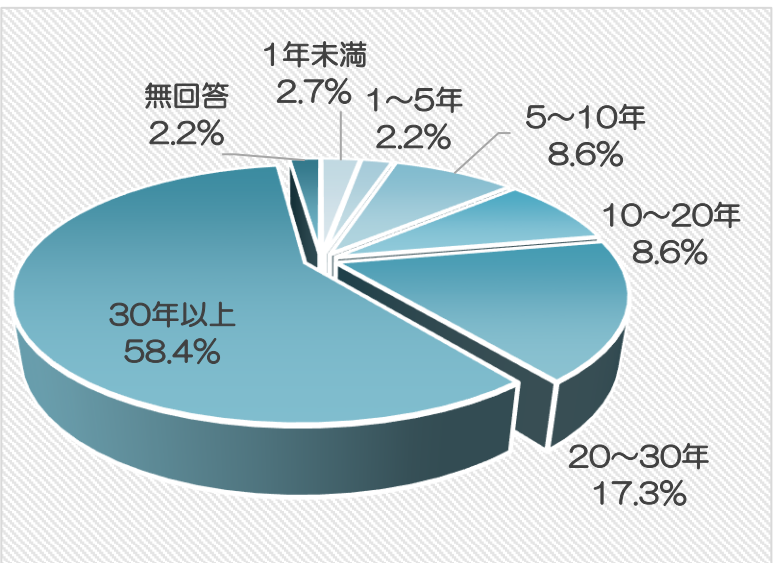


「萩野」(15.1%)が最も多く、以下「鉄北」(14.6%)、「鉄南」(13.0%)の順となっている。

問7. 白老町に住んで通算何年になりますか。

年数	件数	%
1年未満	5	2.7%
1～5年	4	2.2%
5～10年	16	8.6%
10～20年	16	8.6%
20～30年	32	17.3%
30年以上	108	58.4%
無回答	4	2.2%

※合計が100%とならない場合があります。



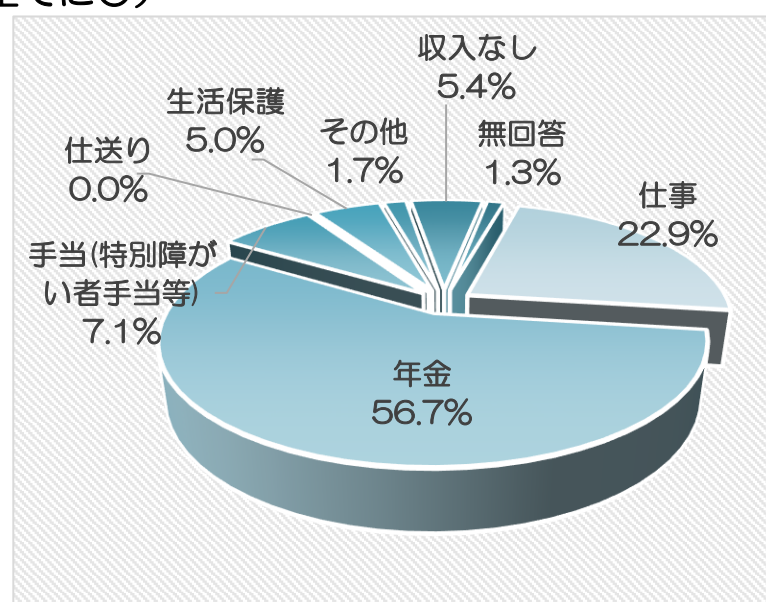
「30年以上」(58.4%)が最も多く、以下「20～30年」(17.3%)、「5～10年」・「10～20年」(8.6%)の順となっている。

2 生活について

問8. あなたの収入の種類はどれですか。（該当する全てに○）

回答	件数	%
仕事	55	22.9%
年金	136	56.7%
手当(特別障がい者手当等)	17	7.1%
仕送り	0	0.0%
生活保護	12	5.0%
その他	4	1.7%
収入なし	13	5.4%
無回答	3	1.3%

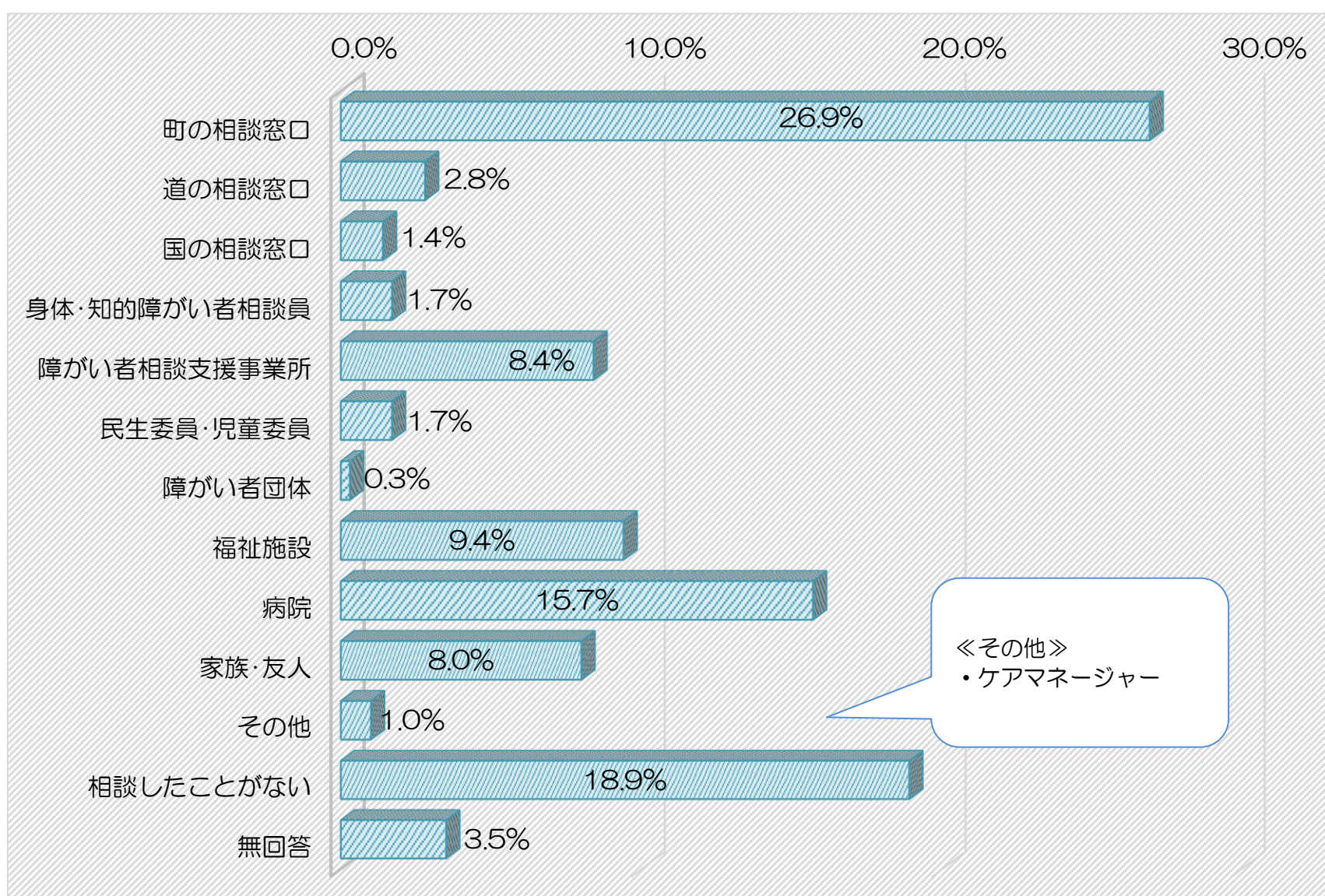
※合計が100%とならない場合があります。



「年金」(56.7%)が最も多く、以下「仕事」(22.9%)、「手当」(7.1%)の順となっている。

問9. あなたや家族は障がい福祉に関して、どこに相談をしたことがありますか。

（該当する全てに○）



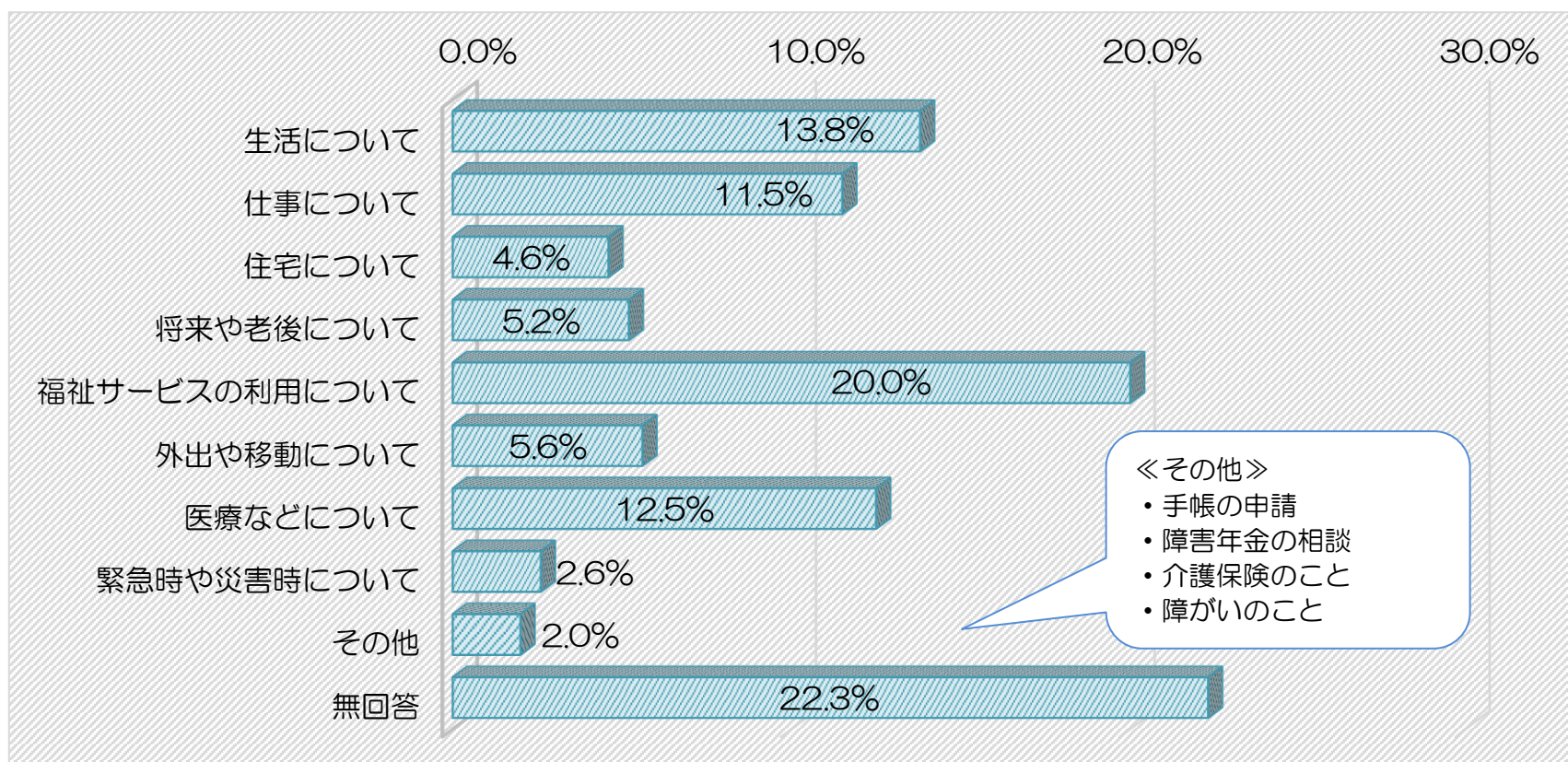
※合計が100%とならない場合があります。

※表示の便宜上、最大値を30.0%としています。

「町の相談窓口」(26.9%)が最も多く、以下「相談したことがない」(18.9%)、「病院」(15.7%)の順となっている。

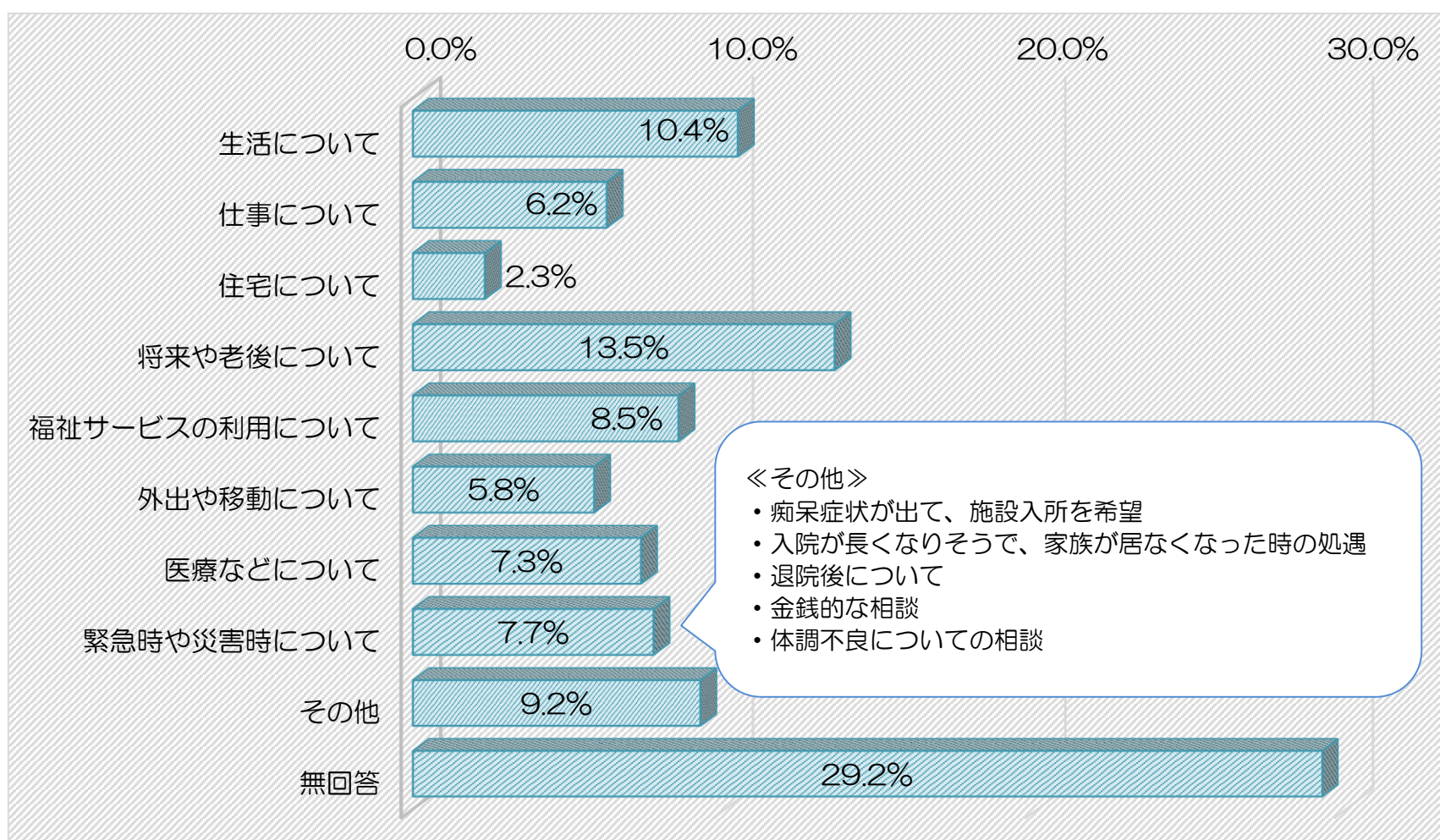
▶問9で相談先をお答えいただいた方にお伺いします。

問10. どのような内容の相談をしましたか。（該当する全てに○）



「無回答」(22.3%)が最も多く、以下「福祉サービスの利用について」(20.0%)、「生活について」(13.8%)の順となっている。

問11. 現在悩んでいることや相談したいことはありますか。（該当する全てに○）

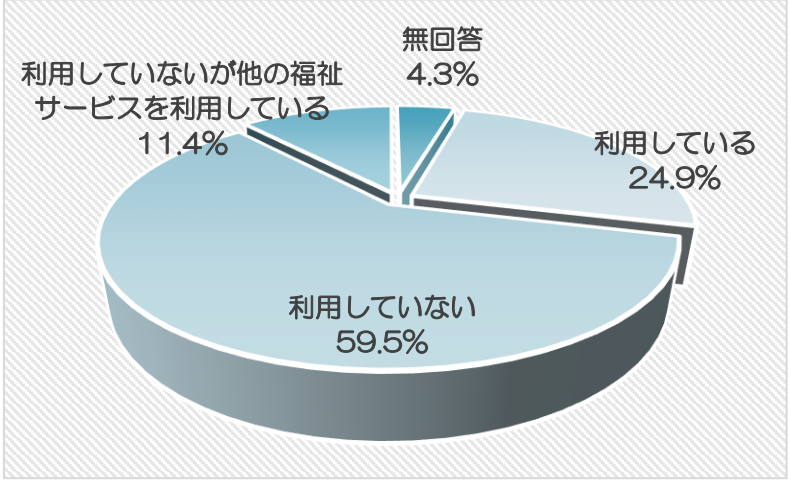


「無回答」(29.2%)が最も多く、以下「将来や老後について」(13.5%)、「生活について」(10.4%)の順となっている。

問12. あなたは現在、障がい福祉サービスを利用していますか。（○は1つ）

回答	件数	%
利用している	46	24.9%
利用していない	110	59.5%
利用していないが他の福祉サービスを利用している	21	11.4%
無回答	8	4.3%

※合計が100%とならない場合があります。



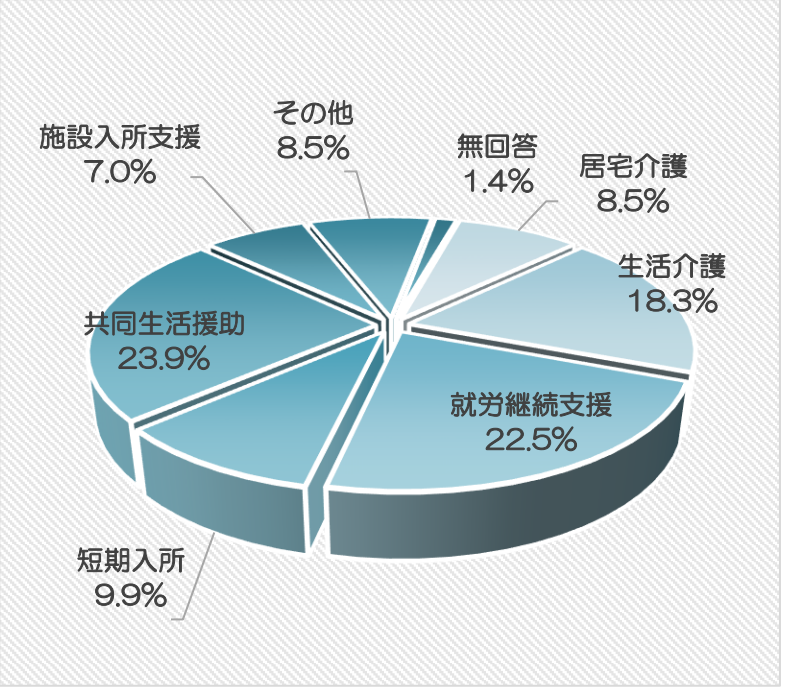
「利用していない」(59.5%)が最も多く、以下「利用している」(24.9%)、「利用していないが他の福祉サービスを利用している」(11.4%)の順となっている。

▶問12で「利用している」とお答えいただいた方にお伺いします。

問12-①. どのようなサービスを利用していますか。（該当する全てに○）

回答	件数	%
居宅介護	6	8.5%
生活介護	13	18.3%
就労継続支援	16	22.5%
短期入所	7	9.9%
共同生活援助	17	23.9%
施設入所支援	5	7.0%
その他	6	8.5%
無回答	1	1.4%

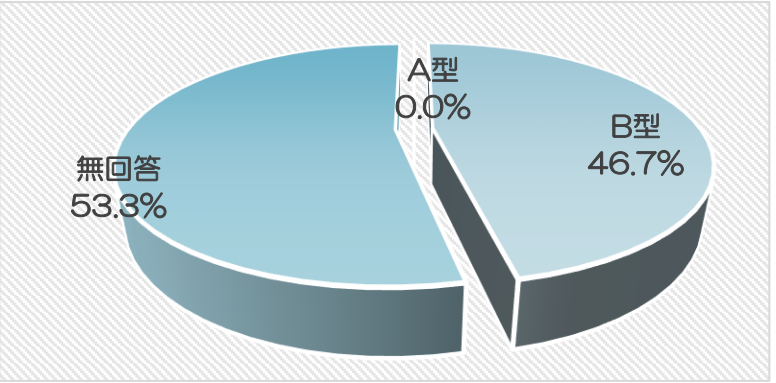
※合計が100%とならない場合があります。



▶「就労継続支援」のサービスを利用している方にお伺いします。

▷ サービスは何型ですか。

回答	件数	%
A型	0	0.0%
B型	7	46.7%
無回答	8	53.3%



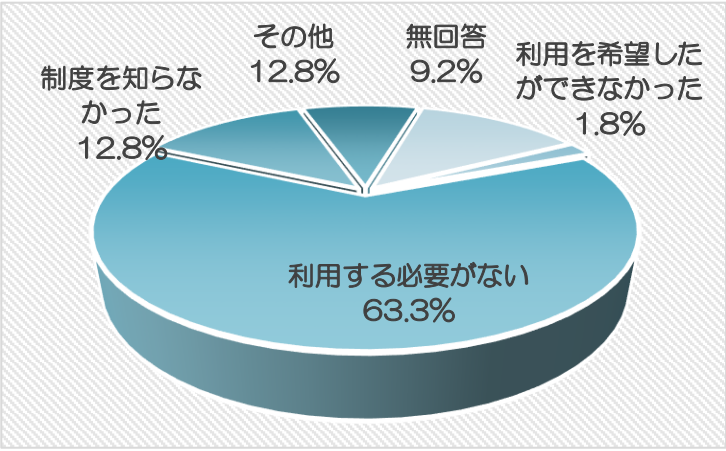
「共同生活援助」(23.9%)が最も多く、以下「就労継続支援」(22.5%)、「生活介護」(18.3%)の順となっている。
就労継続支援を利用しているの方のうち、「無回答」(53.3%)が最も多く、以下「B型」(46.7%)、「A型」(0.0%)の順となっている。

▶問12で「利用していない」とお答えいただいた方にお伺いします。

問12-②. 利用していない理由は何ですか。（該当する全てに○）

回答	件数	%
制度を知らなかった	14	12.8%
利用を希望したができなかった	2	1.8%
利用する必要がない	69	63.3%
その他	14	12.8%
無回答	10	9.2%

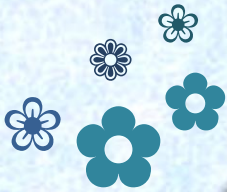
※合計が100%とならない場合があります。



「利用する必要がない」(63.3%)が最も多く、以下「制度を知らなかった」・「その他」(12.8%)、「無回答」(9.2%)の順となっている。

▶問12-②で「その他」と答えた方の理由を教えてください。

- 今のところありませんが、将来必要になるかもしれないのでわかりやすく知りたい
- 入院中、体調不良のため、制度を知らなかった
- 制度の種類がよくわからない
- 両親と一緒に生活しているため
- 早く利用したいが、コロナで考えている
- 距離感があり相談する所ではない
- 視覚障がいは何をするのにも無理なような気がする



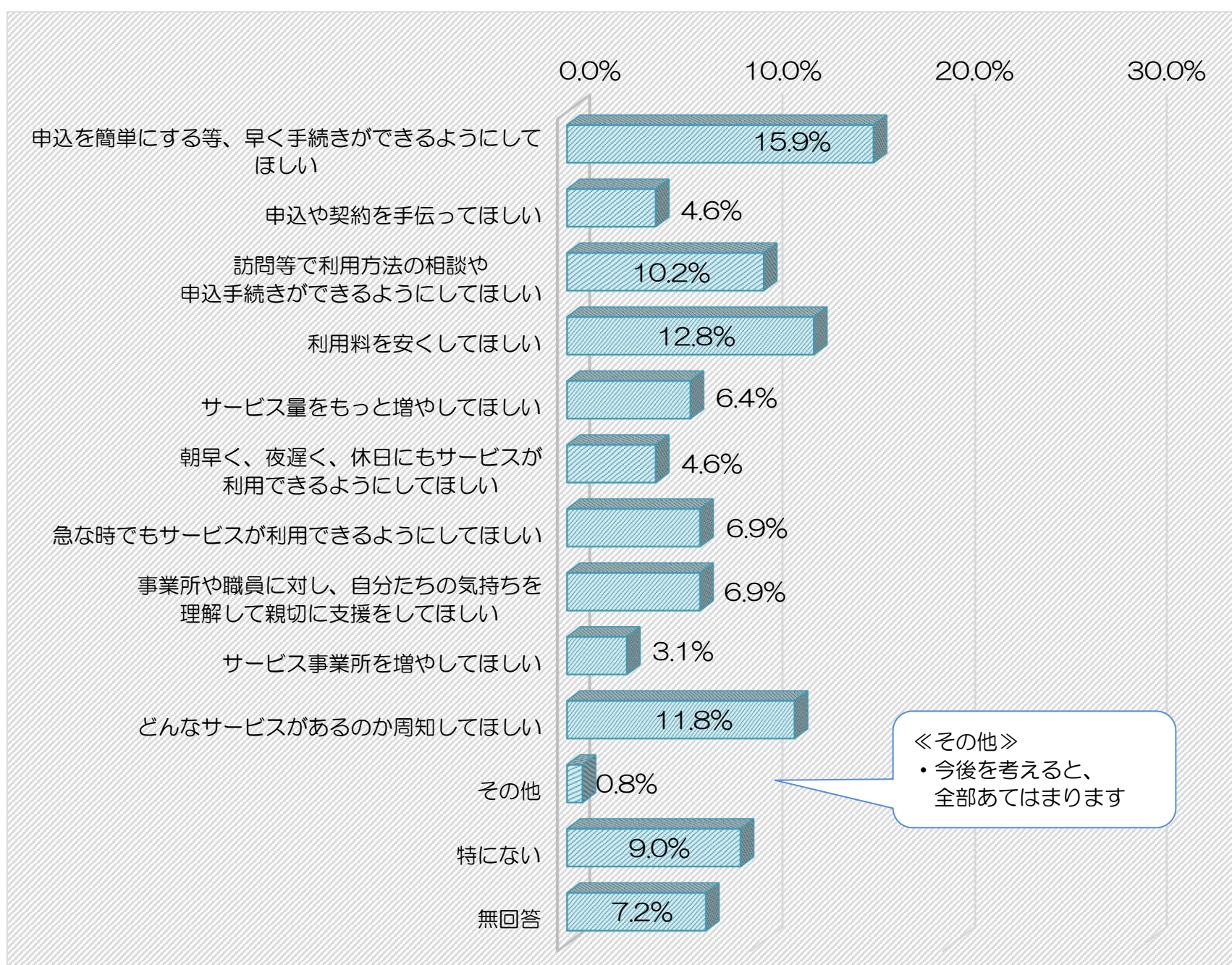
▶問12で「利用していないが介護保険制度など他の福祉サービスを利用している」とお答えいただいた方にお伺いします。

問12-③. どのようなサービスを利用していますか。

- ホームヘルプ
- デイサービス
- 日常生活用具
- 特養
- ショートステイ
- 訪問介護
- トイレの椅子のリース、玄関・風呂の手すり設置、ケアマネの訪問
- 通所リハビリ



問13. 今後、障がい福祉サービスをもっと利用しやすくするためには、どうしたらよいと思いますか。（該当する全てに○）

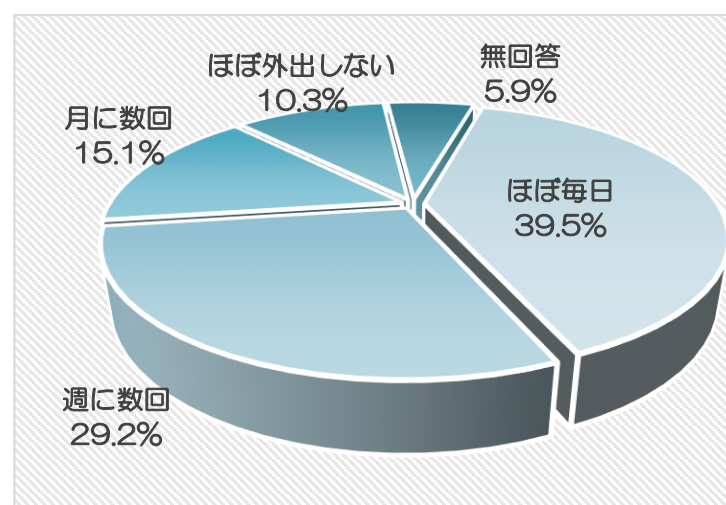


「申込を簡単にする等、早く手続きができるようにしてほしい」（15.9%）が最も多く、以下「利用料を安くしてほしい」（12.8%）、「どんなサービスがあるのか周知してほしい」（11.8%）の順となっている。

問14. あなたの外出（通勤・通学含む）回数はどのくらいですか。（○は1つ）

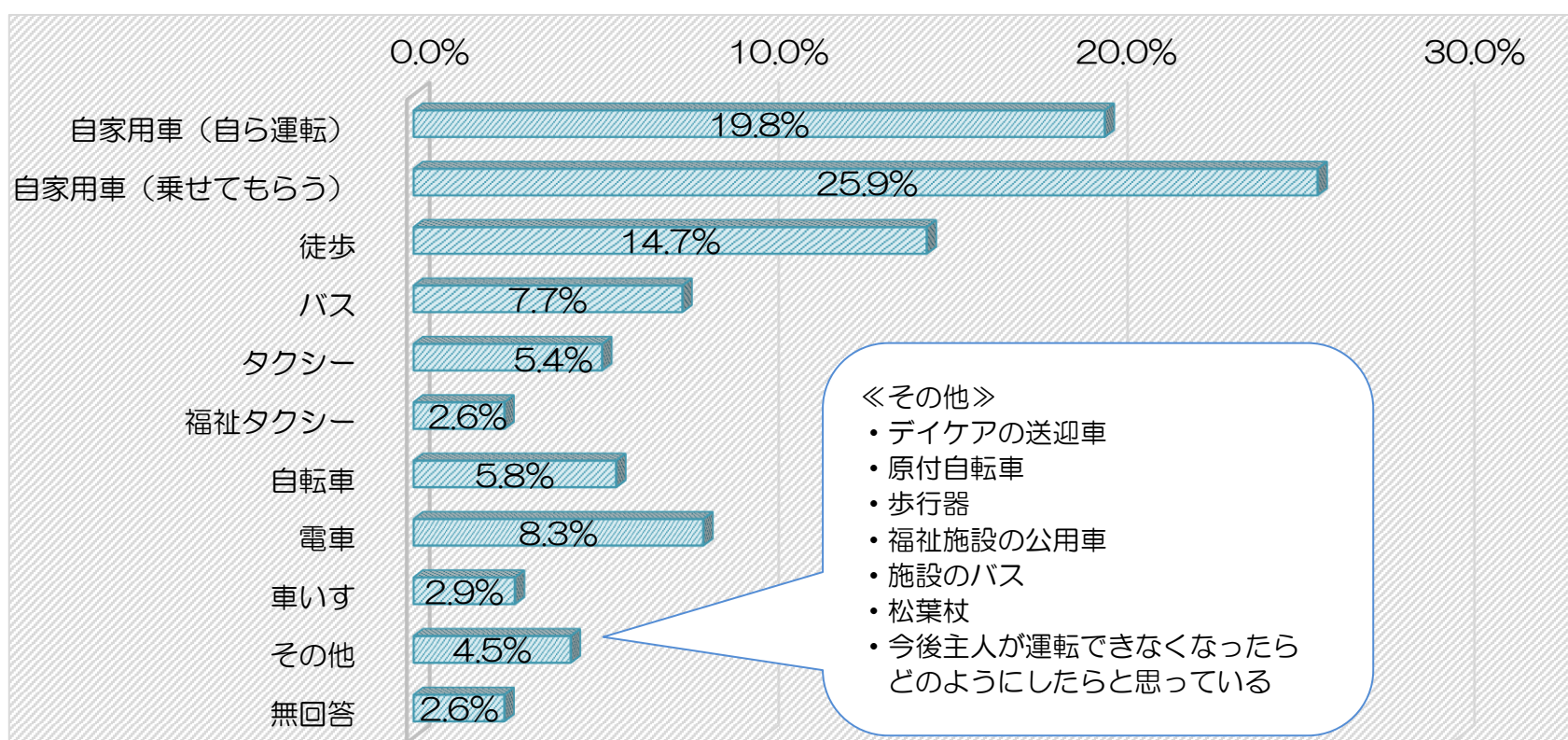
回答	件数	%
ほぼ毎日	73	39.5%
週に数回	54	29.2%
月に数回	28	15.1%
ほぼ外出しない	19	10.3%
無回答	11	5.9%

※合計が100%とならない場合があります。



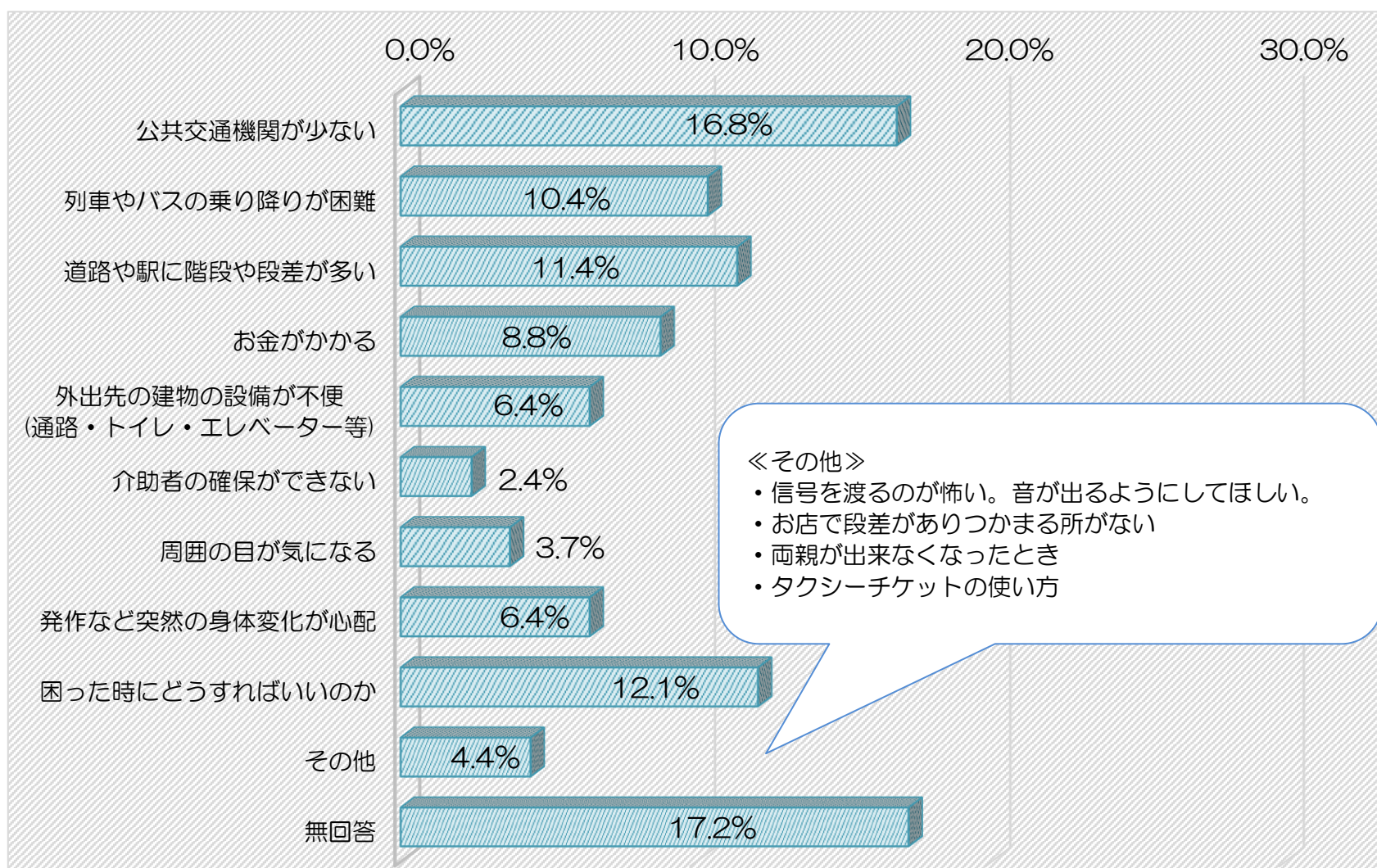
「ほぼ毎日」（39.5%）が最も多く、以下「週に数回」（29.2%）、「月に数回」（15.1%）となっている。

問15. あなたが外出する時に利用する主な移動手段は何ですか。（3つまで○）



「自家用車（乗せてもらう）」(25.9%)が最も多く、以下「自家用車（自ら運転）」(19.8%)、「徒歩」(14.7%)の順となっている。

問16. あなたが外出するうえで、主に困る事は何ですか。（3つまで○）

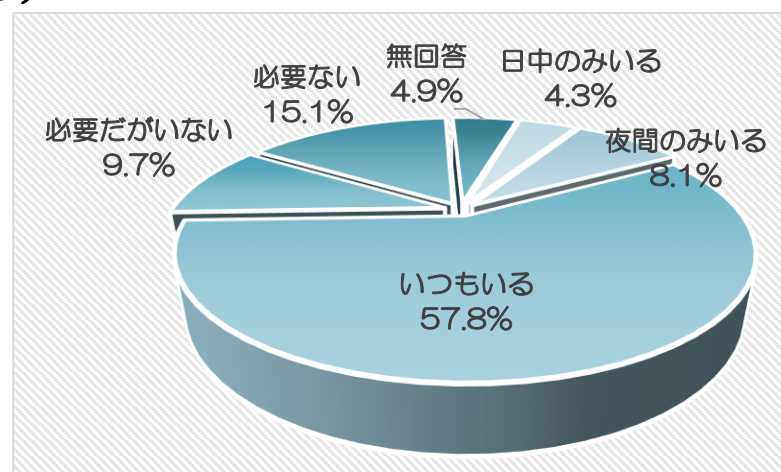


「無回答」(17.2%)が最も多く、以下「公共交通機関が少ない」(16.8%)、「困った時にどうすればいいのか心配」(12.1%)の順となっている。

問17. 災害が起こった場合、あなたを避難所へ誘導するなど安全の確保について、頼れるような人が身近にいますか。（〇は1つ）

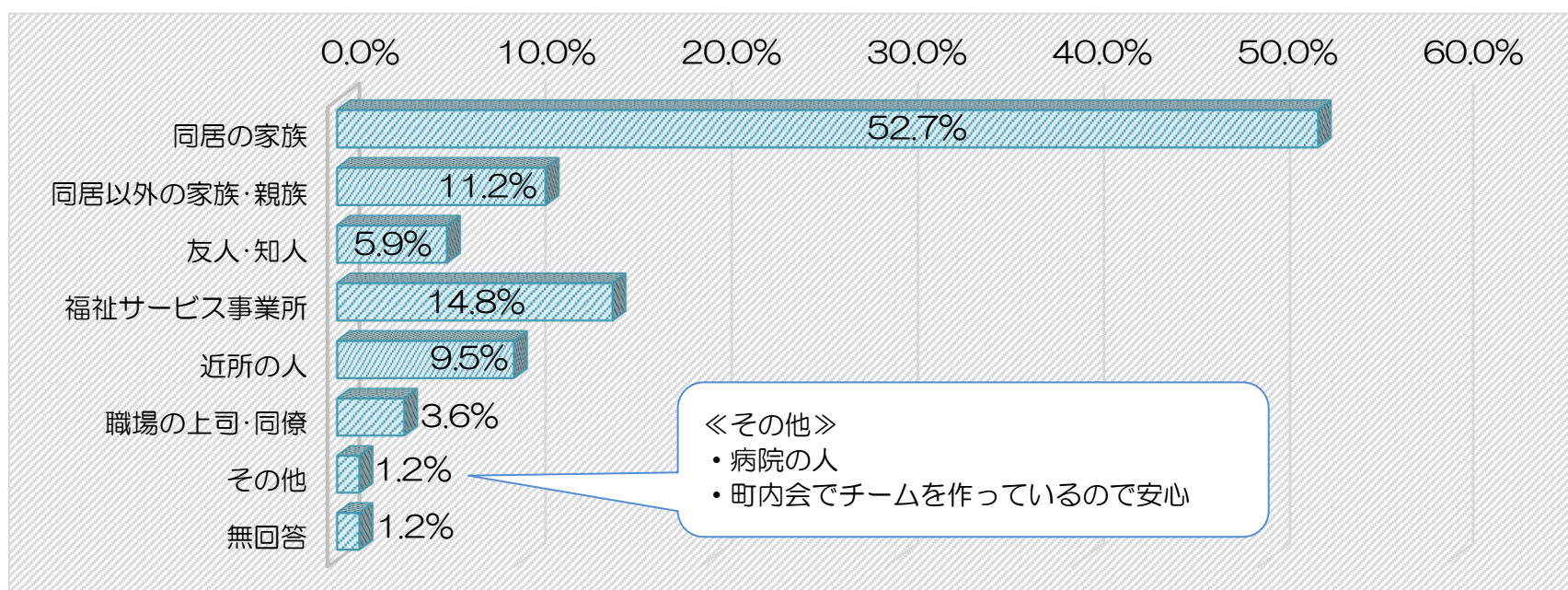
回答	件数	%
日中のみいる	8	4.3%
夜間のみいる	15	8.1%
いつもいる	107	57.8%
必要だがいない	18	9.7%
必要ない	28	15.1%
無回答	9	4.9%

※合計が100%とならない場合があります。



▶問17で「日中のみいる」「夜間のみいる」「いつもいる」と答えた方にお伺いします。

問17-①. それはどなたですか。（該当する全てに〇）



※合計が100%とならない場合があります。

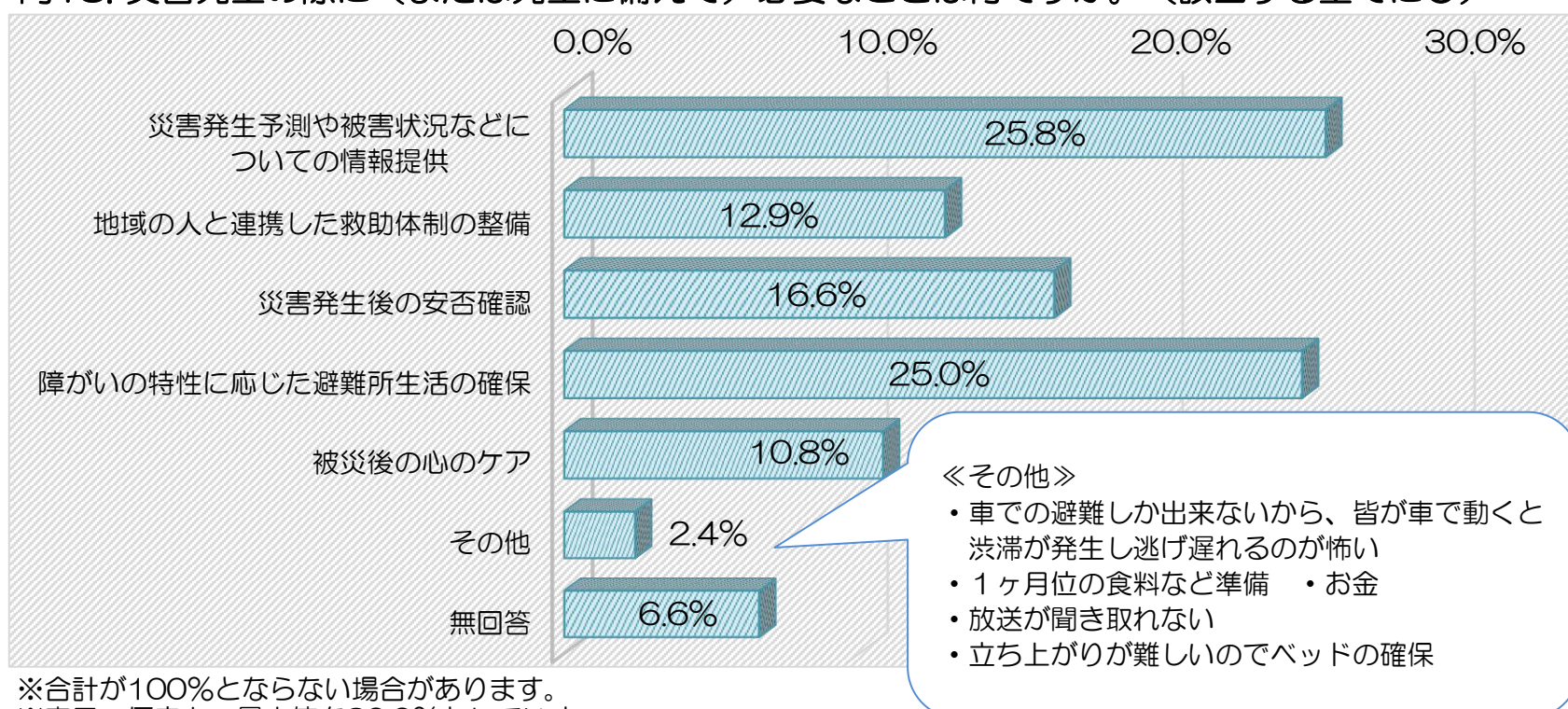
※表示の便宜上、最大値を60.0%としています。

「いつもいる」(57.8%)が最も多く、以下「必要ない」(15.1%)、「必要だがいない」(9.7%)の順となっている。

「日中のみいる」「夜間のみいる」「いつもいる」と回答された方の頼れる人は、「同居の家族」(52.7%)

が最も多く、以下「福祉サービス事業所」(14.8%)、「同居以外の家族・親族」(11.2%)の順となっている。

問18. 災害発生の際に（または発生に備えて）必要なことは何ですか。（該当する全てに〇）



※合計が100%とならない場合があります。

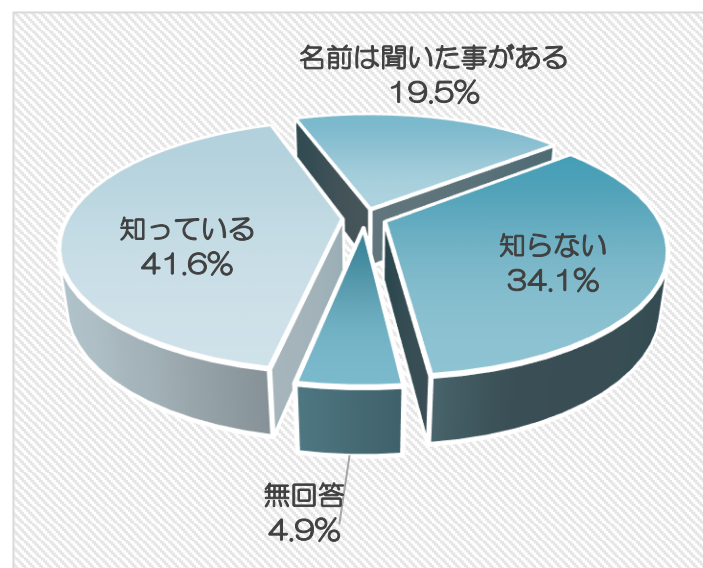
※表示の便宜上、最大値を30.0%としています。

「災害発生予測や被害状況などについての情報提供」(25.8%)が最も多く、以下「障がいの特性に応じた避難所生活の確保」(25.0%)、「災害発生後の安否確認」(16.6%)の順となっている。

問19. あなたは成年後見制度を知っていますか。（〇は1つ）

回答	件数	%
知っている	77	41.6%
名前は聞いた事がある	36	19.5%
知らない	63	34.1%
無回答	9	4.9%

※合計が100%とならない場合があります。

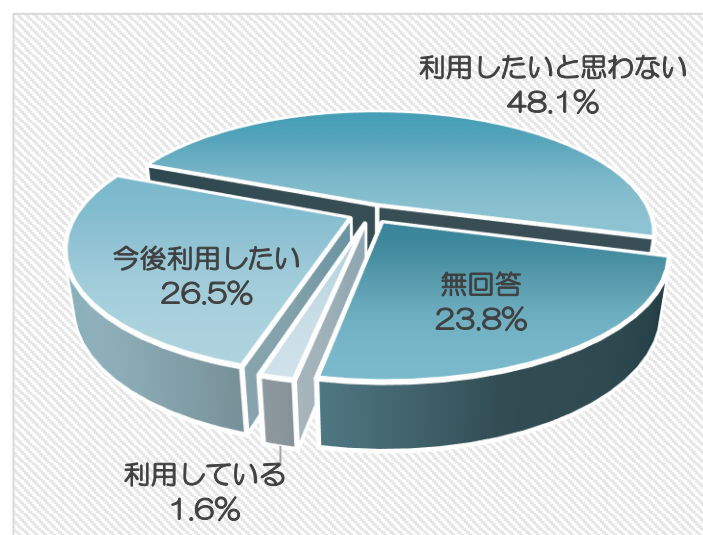


「知っている」(41.6%)が最も多く、以下「知らない」(34.1%)、「名前は聞いた事がある」(19.5%)の順となっている。

問20. 現在、成年後見制度を利用していますか。（〇は1つ）

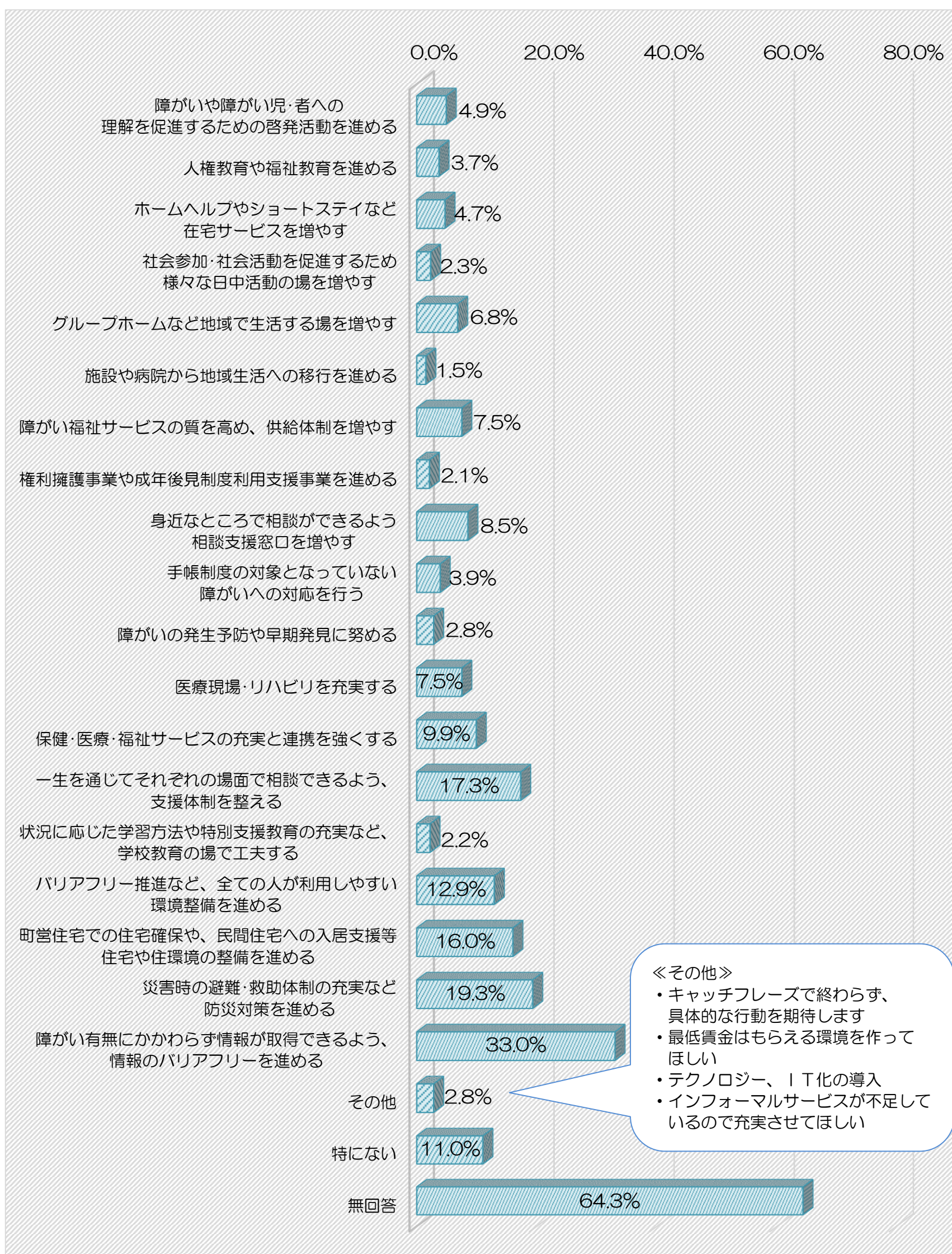
回答	件数	%
利用している	3	1.6%
今後利用したい	49	26.5%
利用したいと思わない	89	48.1%
無回答	44	23.8%

※合計が100%とならない場合があります。



「利用したいと思わない」(48.1%)が最も多く、以下「今後利用したい」(26.5%)、「無回答」(23.8%)の順となっている。

問21.「共に築く希望の未来 しあわせ感じる元気まち」を目指して、今後白老町が特に力を入れるべきことはどのようなことだと思いますか。（5つまで〇）



「無回答」(64.3%)が最も多く、以下「障がい有無にかかわらず情報が取得できるよう、情報のバリアフリーを進める」(33.0%)、「災害時の避難・救助体制の充実など防災対策を進める」(19.3%)の順となっている。

ご意見やご要望、生活の中での困りごとがございましたら、ご自由にお書きください。

- 我々も心身共に元気な高齢者目指して頑張っていきたいと思う。
- 発作が起きたらすぐに薬がほしい
- 急に耳の聞こえが悪くなり自分で喋るのはいいが、相手の声や音が聞こえないため主人といつも喧嘩をしている。何かするといったら紙に書いてもらわないといけない。何かいい方法がないか。
- もう少し連絡が早く来る事を願う。
- 町独自の政策が見えない（ほとんどない）。利用者が知っているだけで一般には知られていない。障がい者と健常者の交流が日常生活の中でできればいいのでは。
- 長男が町外在住。近親者が長男しかいなく、月に2回程度しか様子を見に行けない。認知症からか、何事も大儀がり食事や水分をとることも億劫がり、今回入院するはめになっている。施設への入所か、見守りプログラムの様なものがあればと願っている。
- 障がい者でも働けるような場がほしい
- 現在、障害者手帳の更新手続き中だが、7月中旬に依頼したのに終わらない。遅すぎる。
- 自家用車で病院へ通っているので月のガソリン代が高くなり大変
- 身内が記載。離れて暮らしているが、最低月1回は車で30分かけて本人の所に行っている。1人で生活しているが、隣の方、町内会の会長が声をかけてくれている。私も今元気だが外の身内の人達もそれぞれ都合があり、私が頑張って身体に気をつけている。グループホームに入れるのか？あと4年の期限があるためその間に決めると本人が言っている。白老は福祉に対して結構頑張ってくれていると思う。私も何かあったらどんどん相談したいと思っている。
- インターネット・パソコン・スマホ等利用していない為、IT関係以外での情報がいつでも得られる事を希望。
- 障がい者の理解があってほしい。見た目はそうでもなくても本人的には大変な事が多くある。
- 普段生活している中で、障害者としてどのようなサービスを受けることができるのかよく分からないため、「広報」などで広くお知らせしてはどうか。
- 災害時の避難の時に避難所に段ボールベッドや、椅子などがあるのかとても気になる。足が悪いため床に直接寝るのはとても不安で不便。そういった備品が常備しているのか情報提供もして欲しい。
- 足の障がいがある場合、階段の段差・昇り降りには苦勞する。障がい者に限らず、高齢者の方々にも乗り降り出来る安全で効率の良い駅にしてもらいたいと思う。
- JCHO登別病院に通院している方が多く、私もその一人。病院のバスが今月中になくなるため、元気号を登別まで動かして通院させてほしい。
- 気軽に相談できる場の提供、また障がいにも認定されないが支援の必要な人への体制づくりと心のケアのあり様を検討される必要があるのではないか。
- 心の病など自身が相談できず内にこもっている方々の心のケアのあり方、地域との連携が必要でないか。
- 成年後見制度の町民への周知と後見人の育成、問題が起きた時の相談体制の確保が必要ではないか。後見人の方々の相談の場なども含めた対策が求められるのではないか。
- 障がいがある為に外へ出かけられなくなったと苦しい思いの方々もいる。バリアフリー化の推進と心のケア対策が課題であると思う。
- 日常的に使用する補助用具などの助成条件を緩和していただきたい。
- 施設職員以外にも話を聴いてもらいたい。
- 両親共に体調がよくなく、病院の介護が出来ない時の心配がある。決まった日、時に必ず行かないとならないので。現在、ショートステイを利用していますが、介護できなくなり長期になる場合に不安がある。
- 町立病院に月2回タクシーを使っているので負担になる。
- 仕事がない
- 大変な仕事の中で福祉センターの皆さんに感謝の気持ちで一杯。これからも頑張ってください。 
- 白老に来て、とても親切にしてもらっている。ありがとうございます。 

《調査概要》

障がいのある方の福祉に関する計画をつくるにあたり、このアンケートを実施しました。

- ① 調査対象
 - ＞ 児童発達支援事業を利用されているお子さんの保護者の方
 - ＞ 特別支援学級に通っているお子さんの保護者の方
- ② 調査対象人数
 - ＞ 69名
- ③ 調査方法
 - ＞ 学校・事業所からの配布による調査
- ④ 調査期間
 - ＞ 配布：令和2年8月24日（月） 締切：令和2年9月18日（金）
- ⑤ 回収数（率）
 - ＞ 45枚（65.2%）



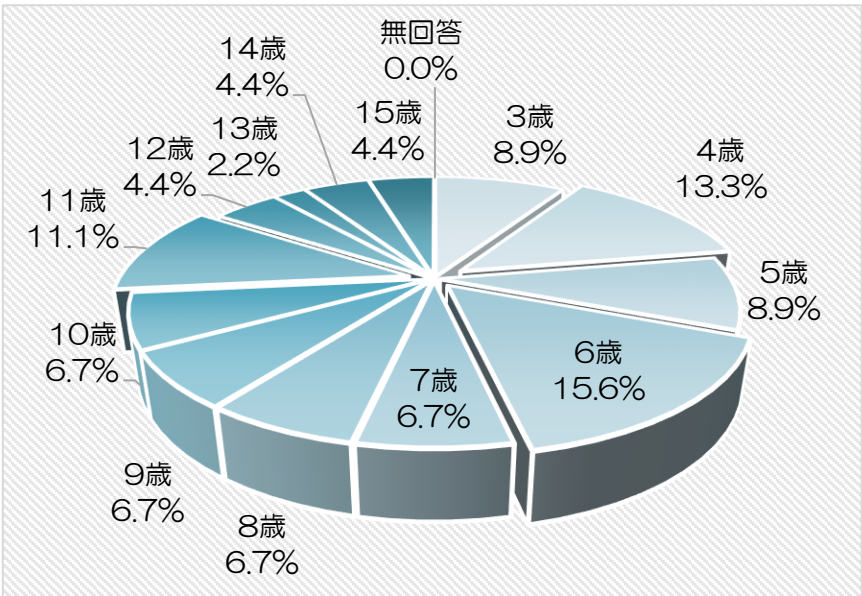
「調査結果」

1 お子さんご家族について

問1. お子さんの年齢を教えてください。（令和2年8月1日時点）

年齢	件数	%	年齢	件数	%
3歳	4	8.9%	10歳	3	6.7%
4歳	6	13.3%	11歳	5	11.1%
5歳	4	8.9%	12歳	2	4.4%
6歳	7	15.6%	13歳	1	2.2%
7歳	3	6.7%	14歳	2	4.4%
8歳	3	6.7%	15歳	2	4.4%
9歳	3	6.7%	無回答	0	0.0%

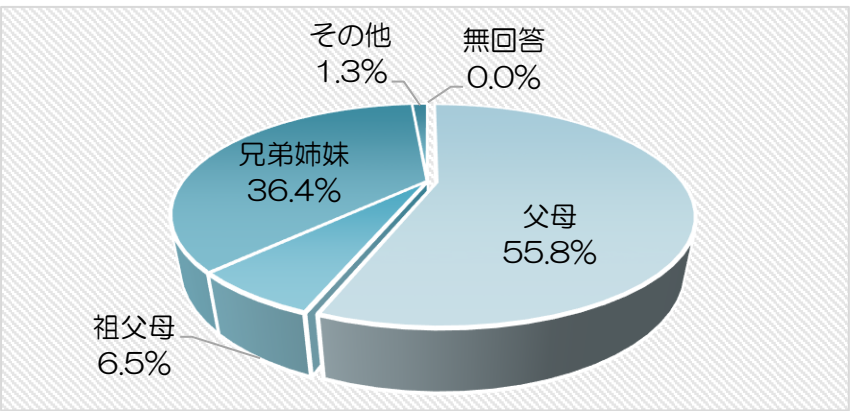
※合計が100%とならない場合があります。



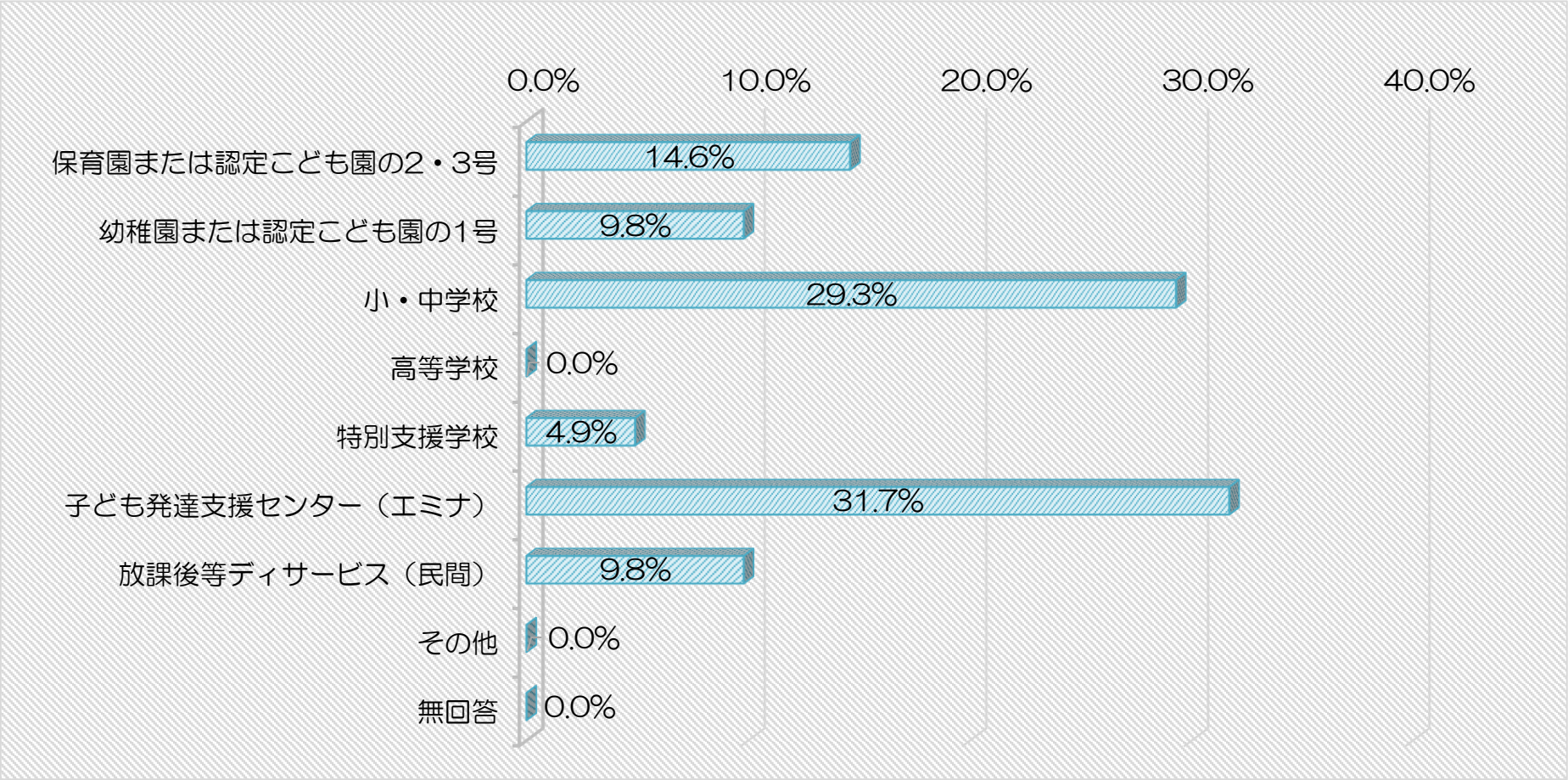
問2. お子さんが一緒に暮らしている人はどなたですか。（〇はいくつでも）

性別	件数	%
父母	43	55.8%
祖父母	5	6.5%
兄弟姉妹	28	36.4%
その他	1	1.3%
無回答	0	0.0%

※合計が100%とならない場合があります。



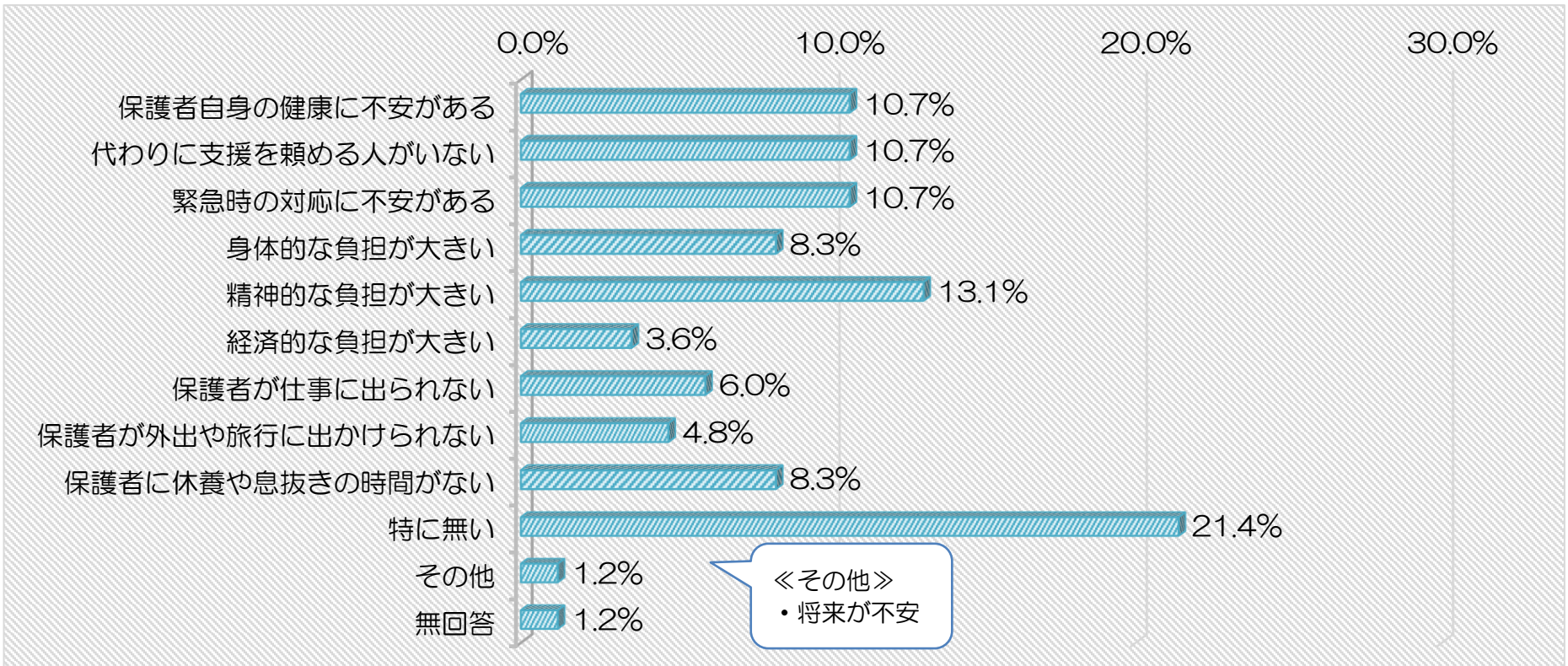
問3. お子さんが主に所属しているところ、通っているところを教えてください。（〇はいくつでも）



※合計が100%とならない場合があります。

「子ども発達支援センター」（31.7%）が最も多く、以下「小・中学校」（29.3%）、
「保育園または認定こども園」（14.6%）の順となっている。

問4. お子さんの援助・介助・介護について保護者さまが感じることは何ですか。（〇はいくつでも）



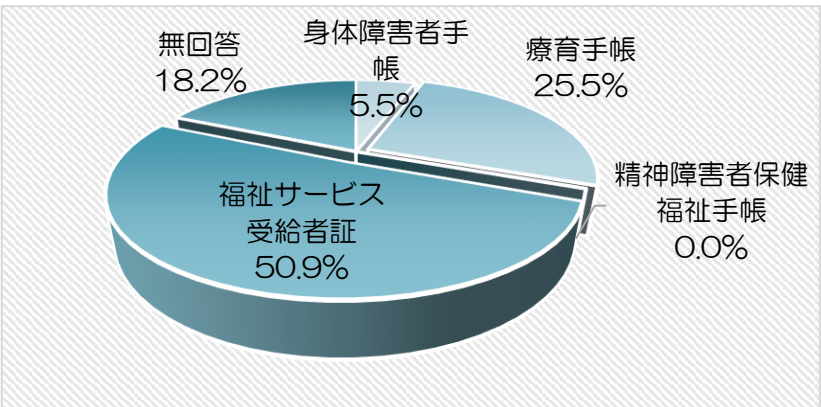
※合計が100%とならない場合があります。

「特にない」(21.4%)が最も多く、以下「精神的な負担が大きい」(13.1%)、「保護者自身の健康に不安がある」・「代わりに支援を頼める人がいない」・「緊急時の対応に不安がある」(10.7%)の順になっている。

問5. お子さんが交付を受けている手帳等の種類を教えてください。（該当する全てに〇）

種類	件数	%
身体障害者手帳	3	5.5%
療育手帳	14	25.5%
精神障害者保健福祉手帳	0	0.0%
福祉サービス受給者証	28	50.9%
無回答	10	18.2%

※合計が100%とならない場合があります。

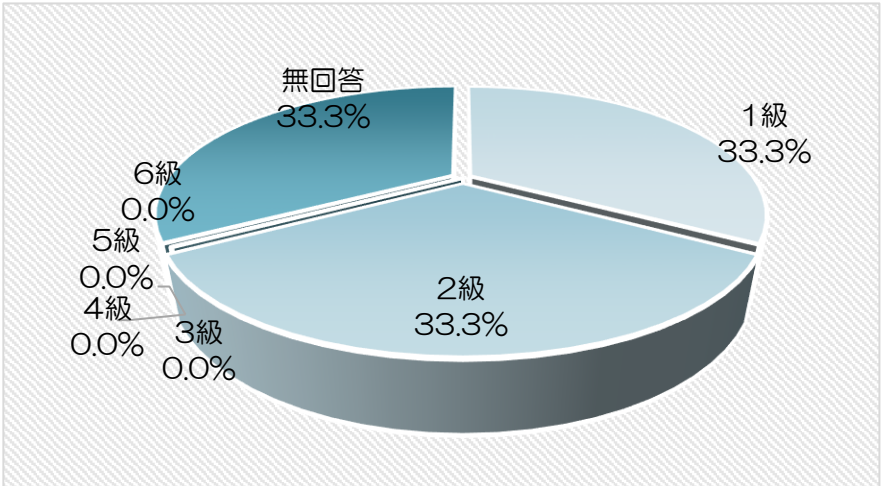


▶「身体障害者手帳」をお持ちの方にお伺いします。

▷問5-①. 障がい等級は何級ですか。

等級	件数	%
1級	1	33.3%
2級	1	33.3%
3級	0	0.0%
4級	0	0.0%
5級	0	0.0%
6級	0	0.0%
無回答	1	33.3%

※合計が100%とならない場合があります。

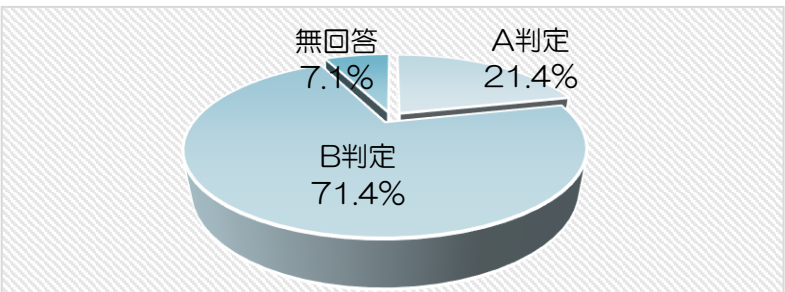


▶「療育手帳」をお持ちの方にお伺いします。

▷問5-②. 障がい判定は何判定ですか。

判定	件数	%
A判定	3	21.4%
B判定	10	71.4%
無回答	1	7.1%

※合計が100%とならない場合があります。



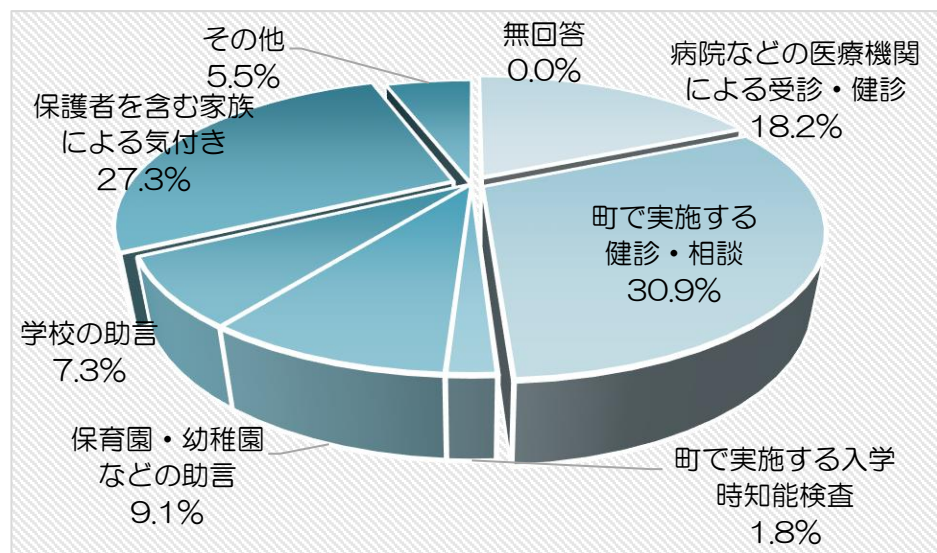
回答数は「福祉サービス受給者証」(50.9%)が最も多く、以下「療育手帳」(25.5%)、「身体障害者手帳」(5.5%)の順となっている。身体障害者手帳をお持ちの方のうち、等級は「1級・2級」(各33.3%)、「無回答」(33.3%)となっている。療育手帳をお持ちの方のうち、「B判定」(71.4%)が最も多く、以下「A判定」(21.4%)、「無回答」(7.1%)の順となっている。精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方はいませんでした。

2 気づきについて

問6. お子さんの発達課題などに気付いたきっかけは何でしたか。

回答	件数	%
病院などの医療機関による受診・健診	10	18.2%
町で実施する健診・相談	17	30.9%
町で実施する入学時知能検査	1	1.8%
保育園・幼稚園などの助言	5	9.1%
学校の助言	4	7.3%
保護者を含む家族による気づき	15	27.3%
その他	3	5.5%
無回答	0	0.0%

※合計が100%とならない場合があります。



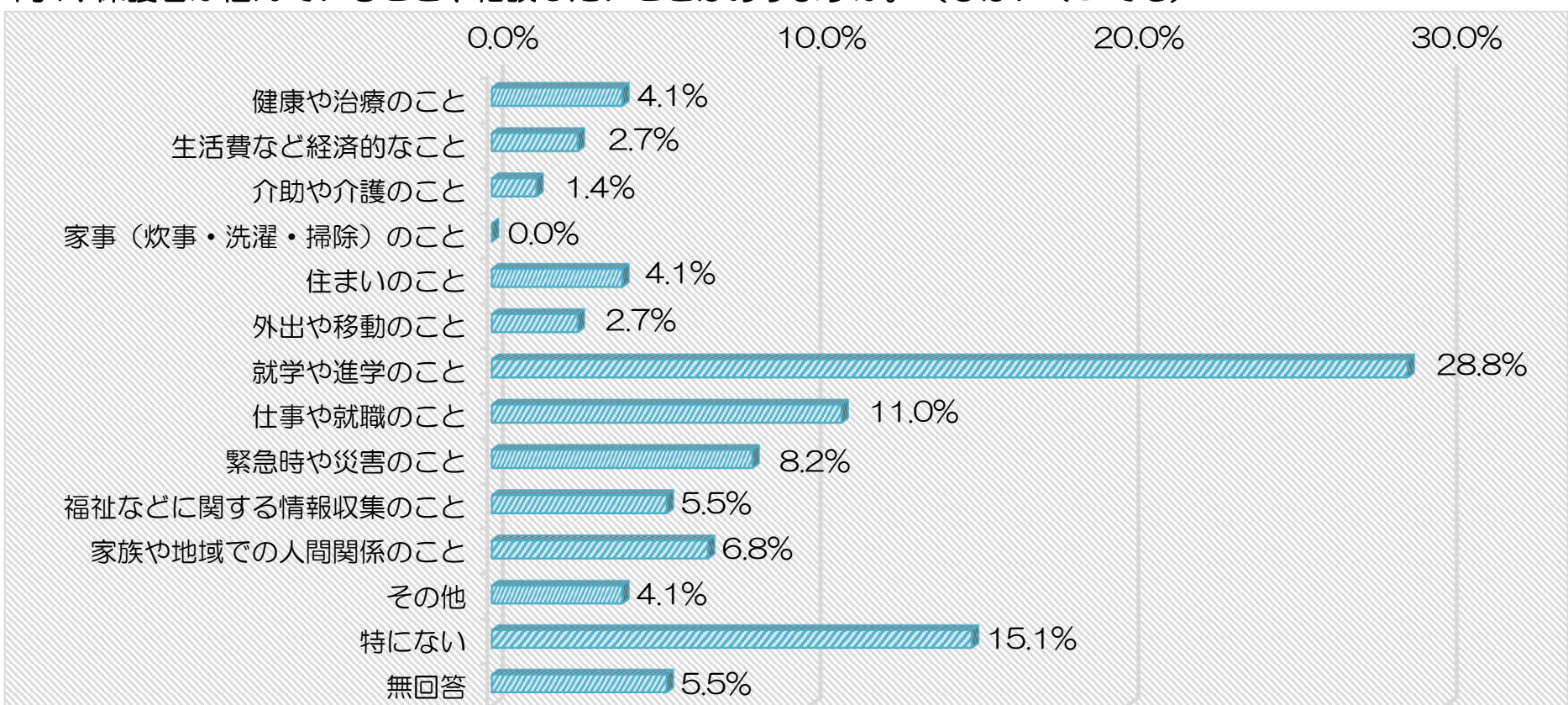
「町で実施する健診・相談」(30.9%)が最も多く、以下「保護者を含む家族による気づき」(27.3%)、「病院などの医療機関による受診・健診」(18.2%)の順となっている。

「気づきについて」のご意見やご提案など、お聞かせください。

- 3歳児健診以降成長・発達を見て貰える場面が限られてしまうので、健診のようなものがあったら安心感があると思います。
- ピンポイントに遊びに来た時に相談させてもらえたのでつながりやすくて助かりました。
- 定期的にある健診の他にも気軽に相談できるきっかけがあると良いと思う。我が家は転勤族で、物理的にも助けてもらえる相手もいなかったで電話一本もらえるだけでも違うと思います。
- 子育てサークルなどに参加している場合、他の子と比べたりして気付く機会があるものの、理解したり受け入れたすることに抵抗を感じる親が多いので、健診や保健師さんによる訪問などでアドバイスをする場面を増やしてほしい。
- 就学まで毎年健診があるとありがたいと思います。
- 任意でもよいので毎年健診があると安心します。
- 5歳児くらいに健診をしてほしいと思います。
- 健診の時、もっと詳しく発達具合について教えてほしい。
- 小学校に上がる前まで健診があっても良いと思う。
- 視覚（視力ではなく）の感覚の検査を成長過程に入れてほしい。

3 相談について

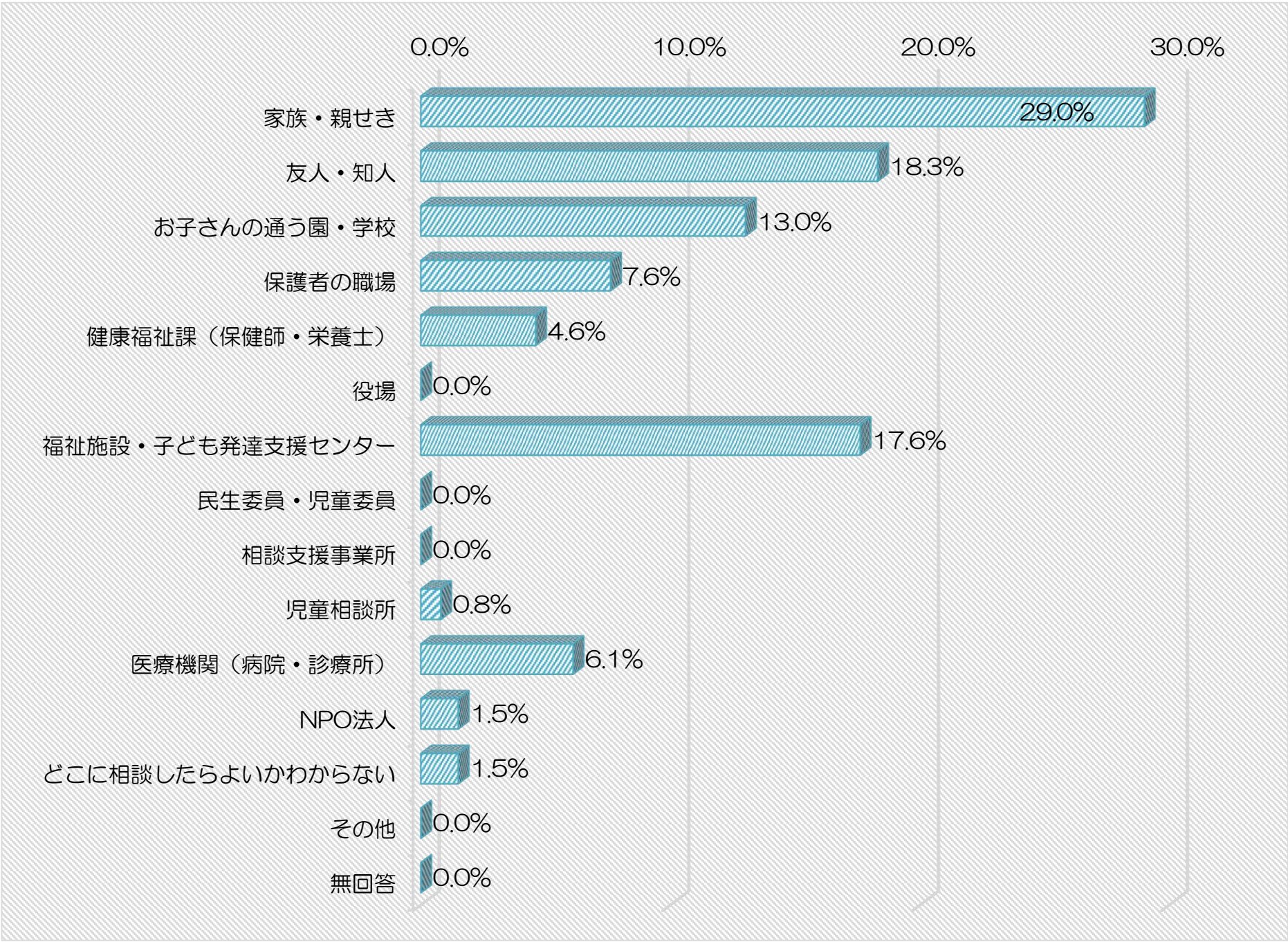
問7. 保護者が悩んでいることや相談したいことはありますか。（〇はいくつでも）



※合計が100%とならない場合があります。

「就学や進学のこと」(28.8%)が最も多く、以下「特にない」(15.1%)、「仕事や就職のこと」(11.0%)の順となっている。

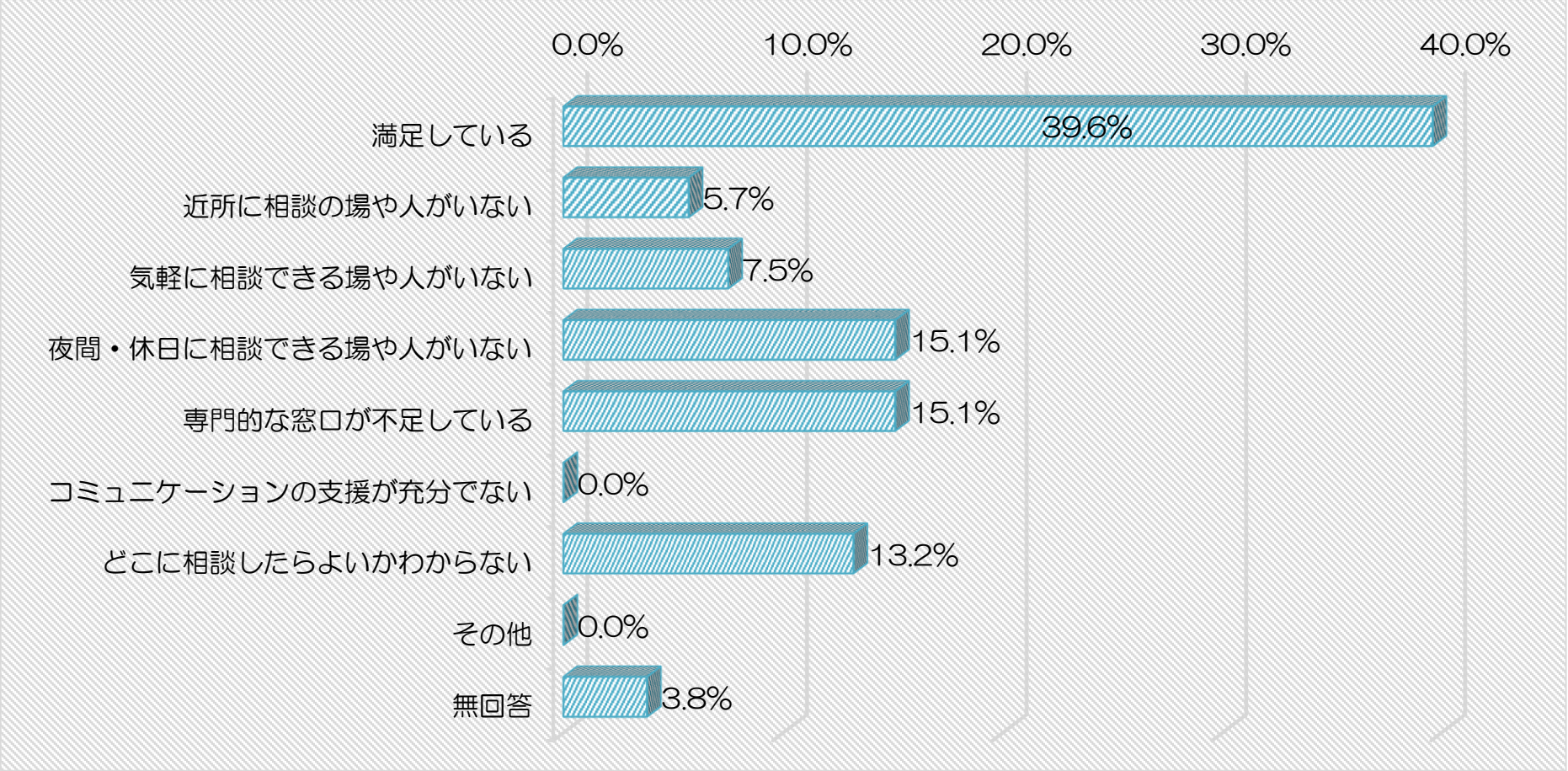
問8. 保護者が悩んでいることを相談する相手は誰（どこ）ですか。（〇はいくつでも）



※合計が100%とならない場合があります。

回答数は「家族・親せき」(29.0%)が最も多く、以下「友人・知人」(18.3%)、「福祉施設・子ども発達支援センター」(17.6%)の順となっている。

問9. 保護者が困ったときの相談体制について、どのように感じていますか。（〇はいくつでも）

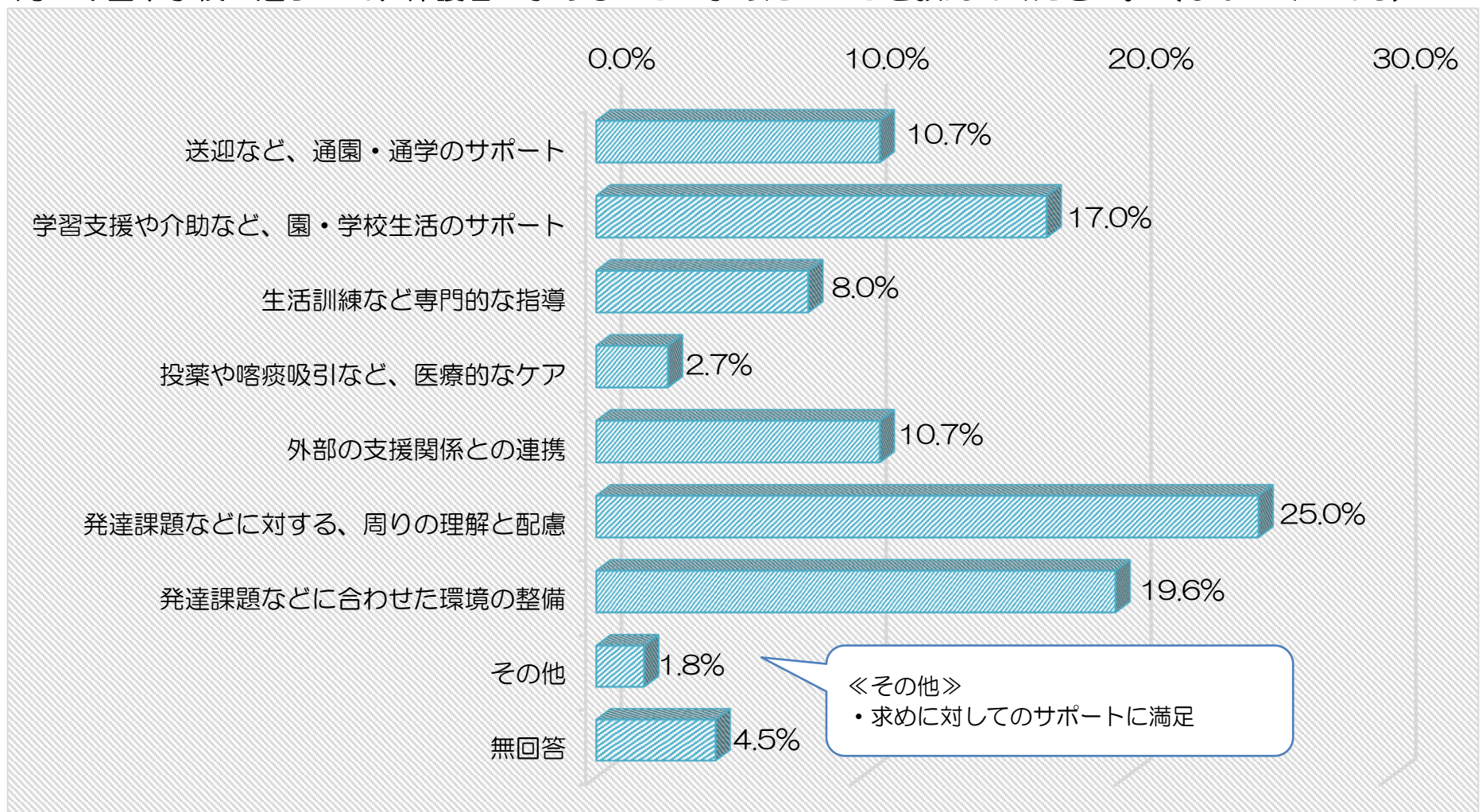


※合計が100%とならない場合があります。

「満足している」(39.6%)が最も多く、以下「夜間・休日に相談できる場や人がいない」、「専門的な窓口が不足している」(各15.1%)の順となっている。

4 幼児期、学齢期について

問10. 園や学校に通う上で、保護者が求めること・求めたいことを教えてください。（〇はいくつでも）



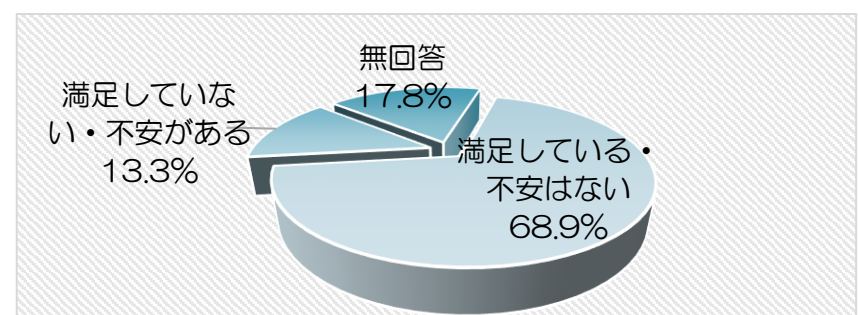
※合計が100%とならない場合があります。

「発達課題などに対する、周りの理解と配慮」(25.0%)が最も多く、以下「発達課題などに合わせた環境の整備」(19.6%)、「学習支援や介助など、園・学校生活のサポート」(17.0%)の順となっている。

問11. 園・学校・放課後児童クラブ等の受け入れ態勢についてどのように感じていますか。

回答	件数	%
満足している・不安はない	31	68.9%
満足していない・不安がある	6	13.3%
無回答	8	17.8%

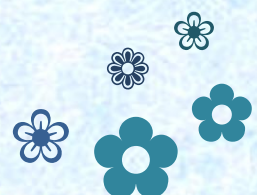
※合計が100%とならない場合があります。



「満足している・不安はない」(68.9%)が最も多く、以下「満足していない・不安がある」(13.3%)、「無回答」(17.8%)の順となっている。

「園・学校・放課後児童クラブなどの支援や環境」についてのご意見やご提案などお聞かせください。

- 入っていないくてもどのようなことを行っているかなど知ることができたらいいなと思います。
- 園には入園時から支援センターでの様子や検査結果などその都度伝えているが、軽視されているように感じている。柔軟に対応してもらえるよう職員や環境など受け入れ態勢を強化して頂きたい。
- 施設についてはバリアフリー化と防音をしっかりしてほしい。不自由なのに遠方しか受け入れられないのはとても悲しい。出来るだけ居住地から通いやすい所に理解してもらえるような施設を作ってほしい。
- 活動の場が大人数で、隣の部屋との仕切りが登れる高さの棚なので、もう少し環境の整備がされないと不安がある。
- 未満児の子など園に入りにくい現状があるようなので人員を確保してほしい。
- 専門的な先生が園や学校にいと良いと思う。
- サポートする方の意見を聞きたいです。
- 通学バスがあてほしい。

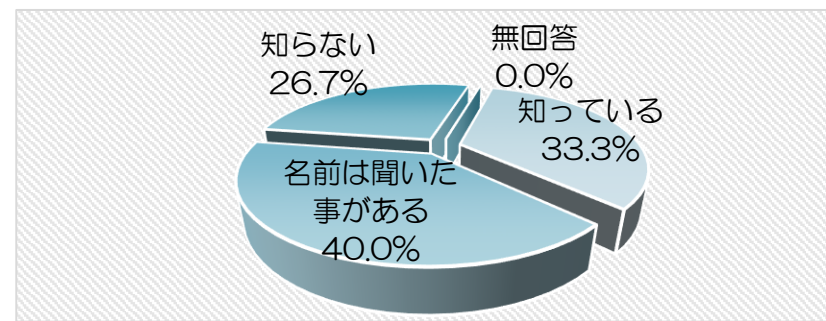


5 権利擁護について

問12. 成年後見制度を知っていますか。

回答	件数	%
知っている	15	33.3%
名前は聞いた事がある	18	40.0%
知らない	12	26.7%
無回答	0	0.0%

※合計が100%とならない場合があります。



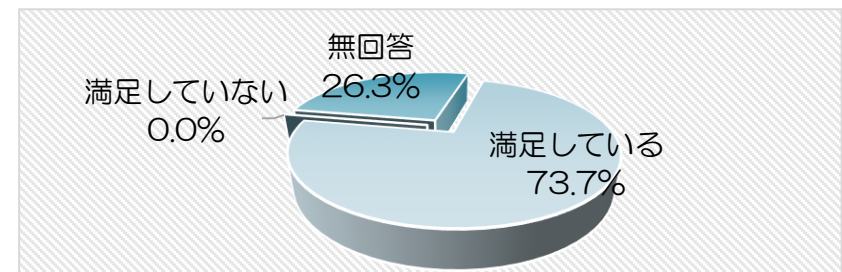
6 福祉サービスについて

▶問13-①児童発達支援事業を利用されているお子さんの保護者の方に伺います。

福祉サービスを利用してみたいと思いましたか。

回答	件数	%
満足している	14	73.7%
満足していない	0	0.0%
無回答	5	26.3%

※合計が100%とならない場合があります。

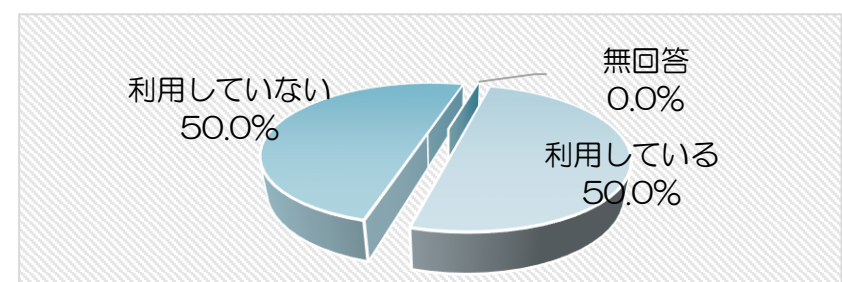


▶問13-②特別支援学級に通っているお子さんの保護者の方に伺います。

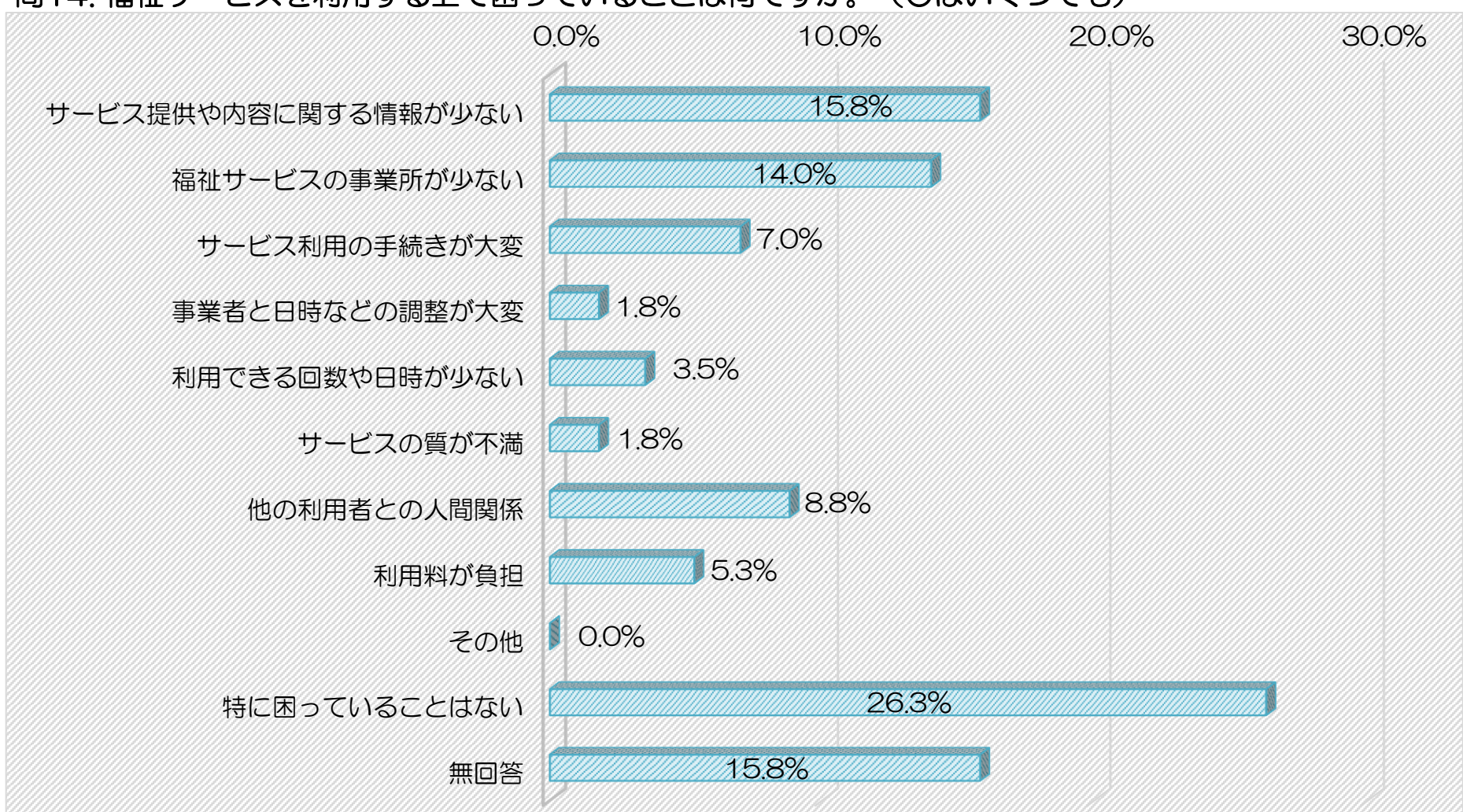
福祉サービスを利用していますか。

回答	件数	%
利用している	13	50.0%
利用していない	13	50.0%
無回答	0	0.0%

※合計が100%とならない場合があります。



問14. 福祉サービスを利用する上で困っていることは何ですか。（〇はいくつでも）



※合計が100%とならない場合があります。

「特に困っていることはない」(26.3%)が最も多く、以下「サービス提供や内容に関する情報が少ない」・「無回答」(15.8%)、「福祉サービスの事業所が少ない」(14.0%)の順となっている。

問15. 今後、利用したい福祉サービスは何ですか。（自由記述）

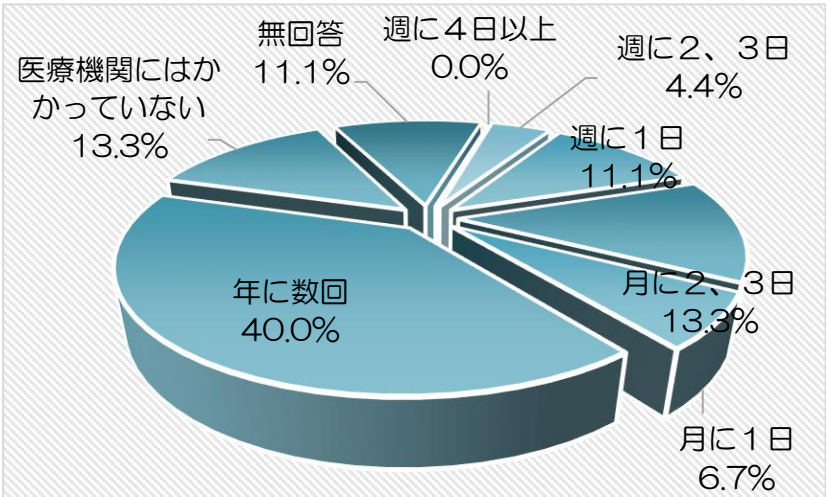
- 児童発達支援
- 放課後等ディサービス
- 日中活動系
- 学習障がいの専門的な知識があるサービス



7 保健・医療について

問16. お子さんの通院状況（リハビリも含む）は、次のうちどれですか。

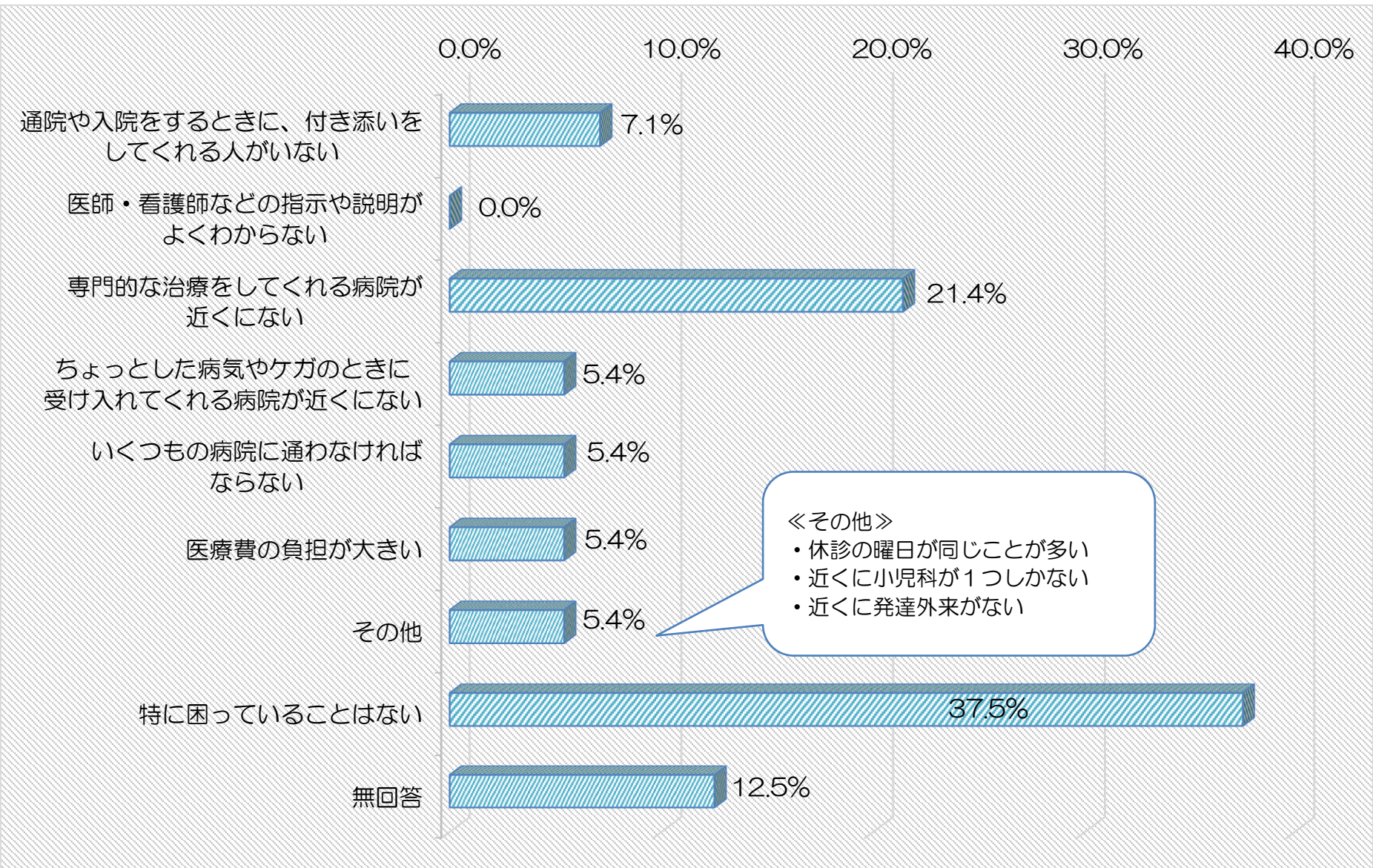
回答	件数	%
週に4日以上	0	0.0%
週に2、3日	2	4.4%
週に1日	5	11.1%
月に2、3日	6	13.3%
月に1日	3	6.7%
年に数回	18	40.0%
医療機関にはかかっていない	6	13.3%
無回答	5	11.1%



※合計が100%とならない場合があります。

「年に数回」(40.0%)が最も多く、
以下「月に2、3日」・「医療機関にはかかっていない」(13.3%)の順となっている。

問17.医療を受ける上で、困っていることはありますか。（〇はいくつでも）

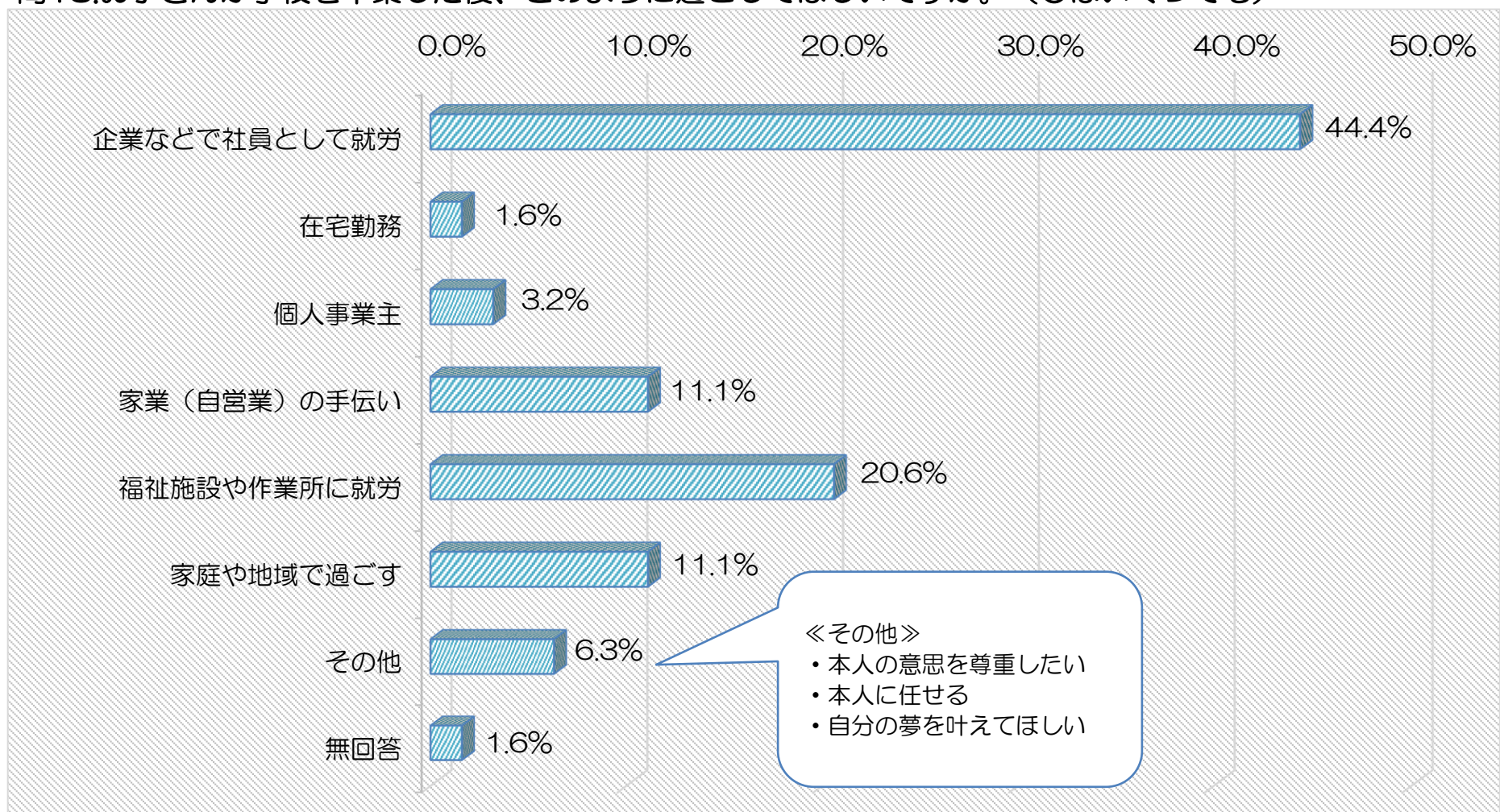


※合計が100%とならない場合があります。

「特に困っていることはない」(37.5%)が最も多く、
以下「専門的な治療をしてくれる病院が近くにない」(21.4%)、「無回答」(12.5%)の順となっている。

8 就労・地域生活について

問18. お子さんが学校を卒業した後、どのように過ごしてほしいですか。（〇はいくつでも）

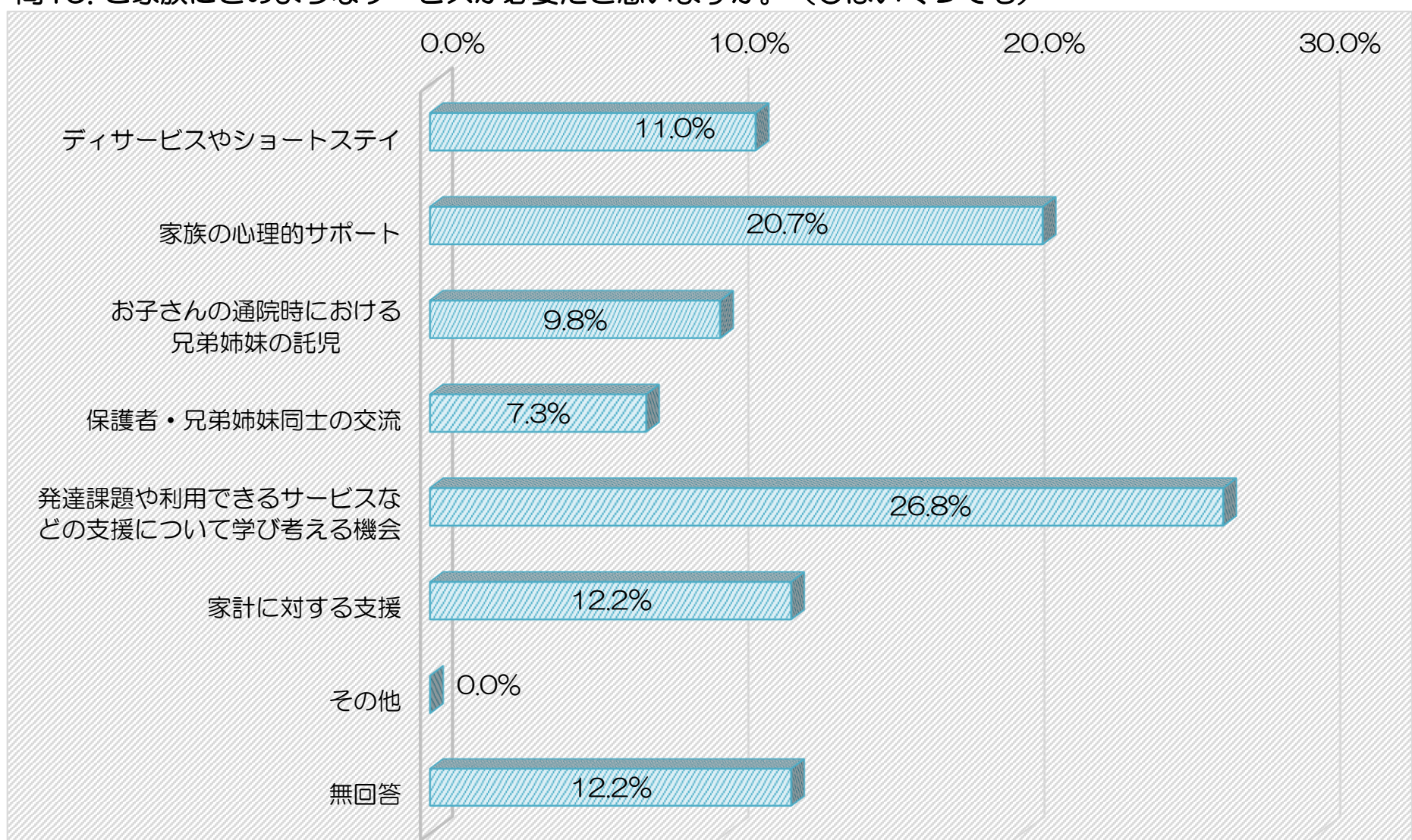


※合計が100%とならない場合があります。

「企業などで社員として就労」(44.4%)が最も多く、以下「福祉施設や作業所に就労」(20.6%)、「家業(自営業)の手伝い」・「家庭や地域で過ごす」(11.1%)の順になっている。

9 ご家族への支援について

問19. ご家族にどのようなサービスが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

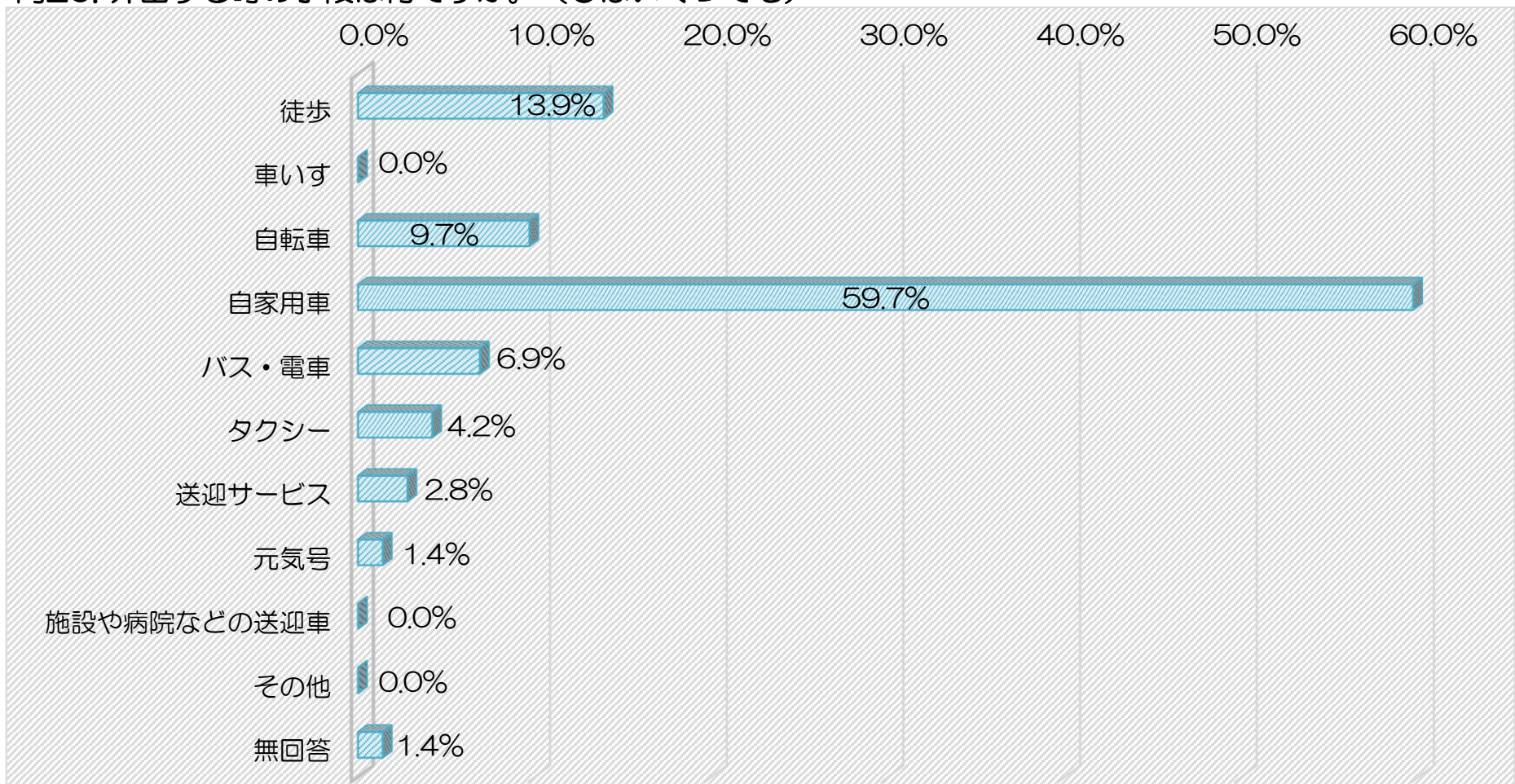


※合計が100%とならない場合があります。

「発達課題や利用できるサービスなどの支援について学び考える機会」(26.8%)が最も多く、以下「家族の心理的サポート」(20.7%)、「家計に対する支援」・「無回答」(12.2%)の順になっている。

10 環境について

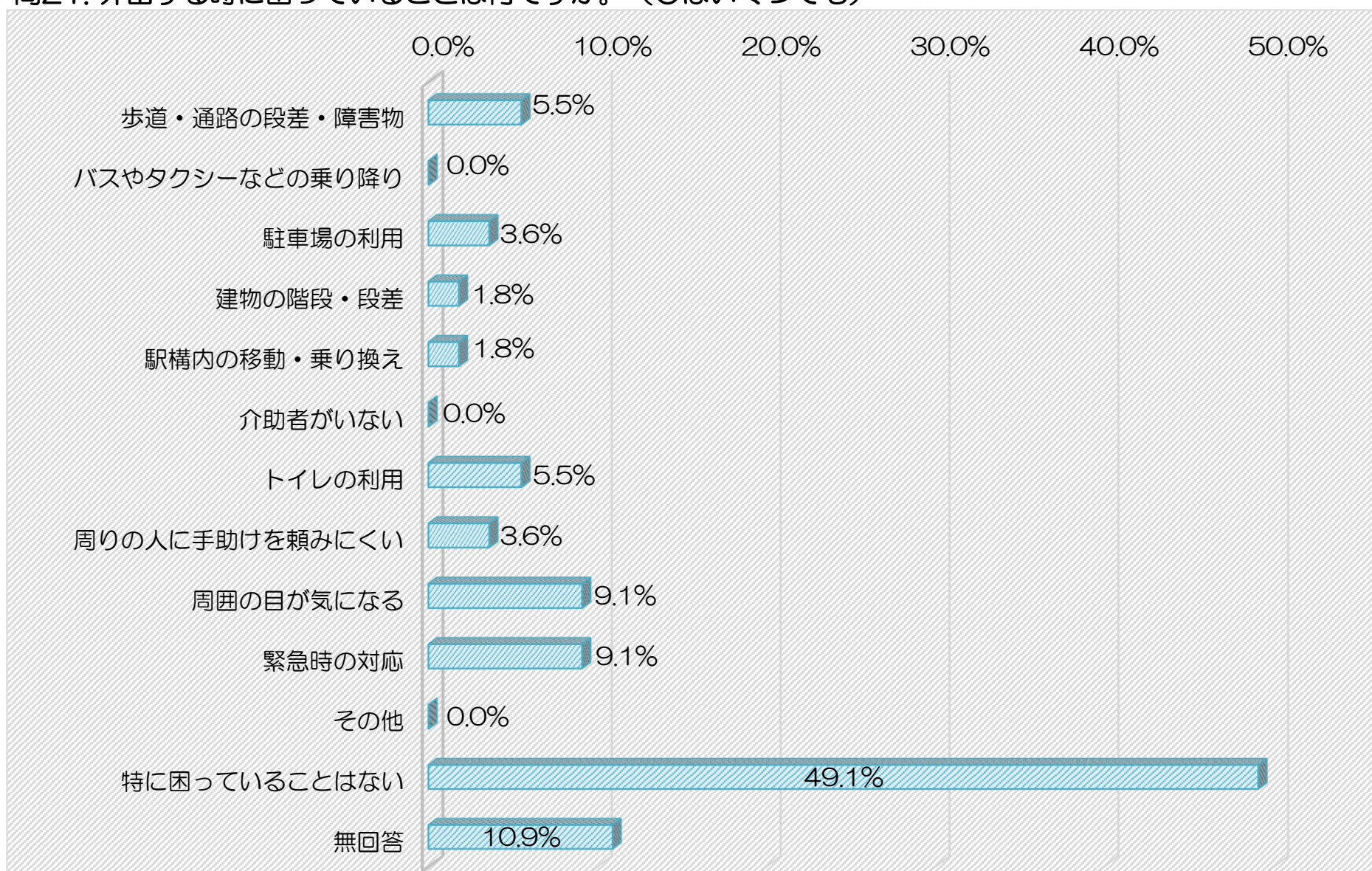
問20. 外出する時の手段は何ですか。（〇はいくつでも）



※合計が100%とならない場合があります。

「自家用車」(59.7%)が最も多く、以下「徒歩」(13.9%)、「バス・電車」(9.7%)の順になっている。

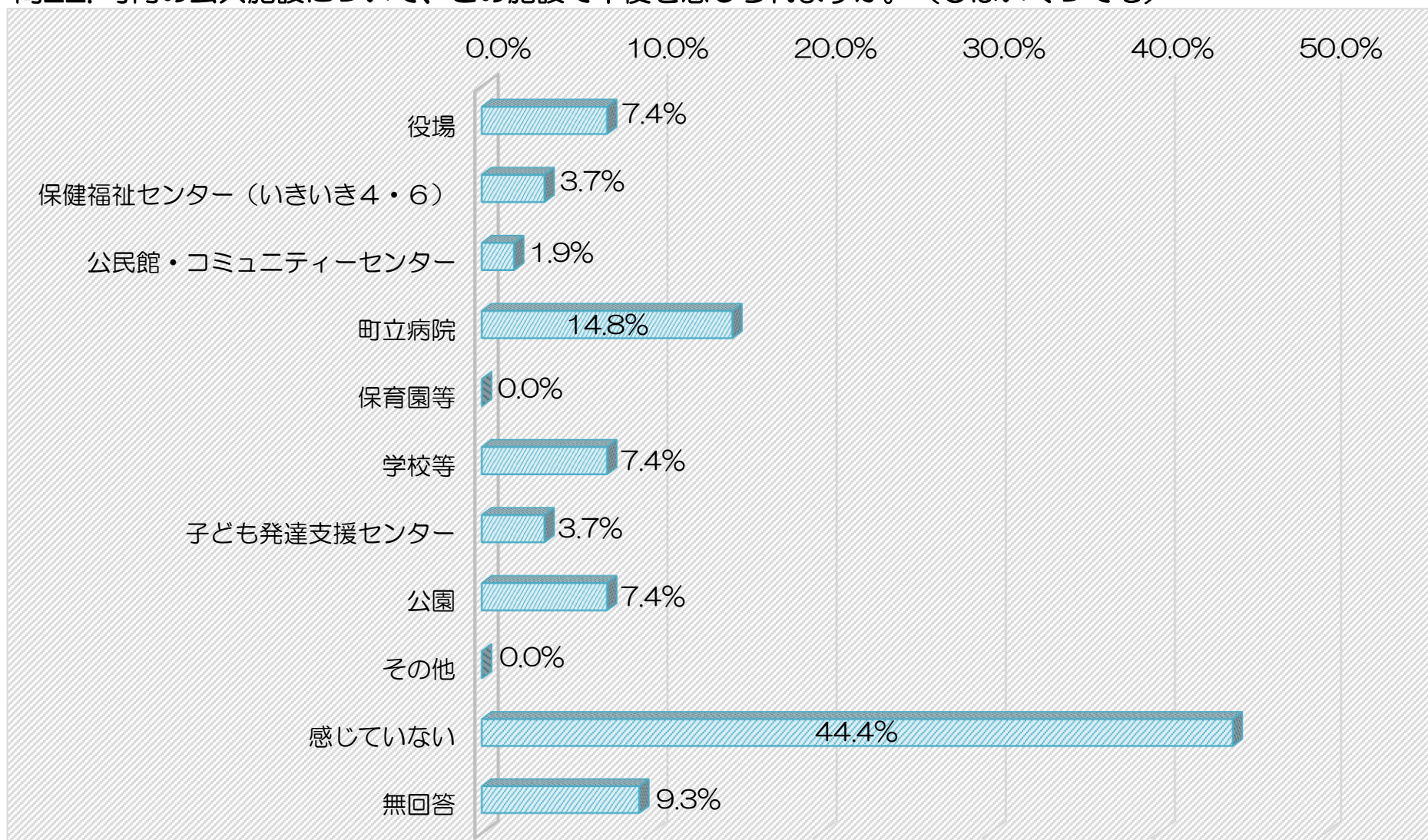
問21. 外出する時に困っていることは何ですか。（〇はいくつでも）



※合計が100%とならない場合があります。

「特に困っていることはない」(49.1%)が最も多く、以下「無回答」(10.9%)、「周囲の目が気になる」・「緊急時の対応」(9.1%)、「歩道・通路の段差・障害物」・「トイレの利用」(5.5%)の順になっている。

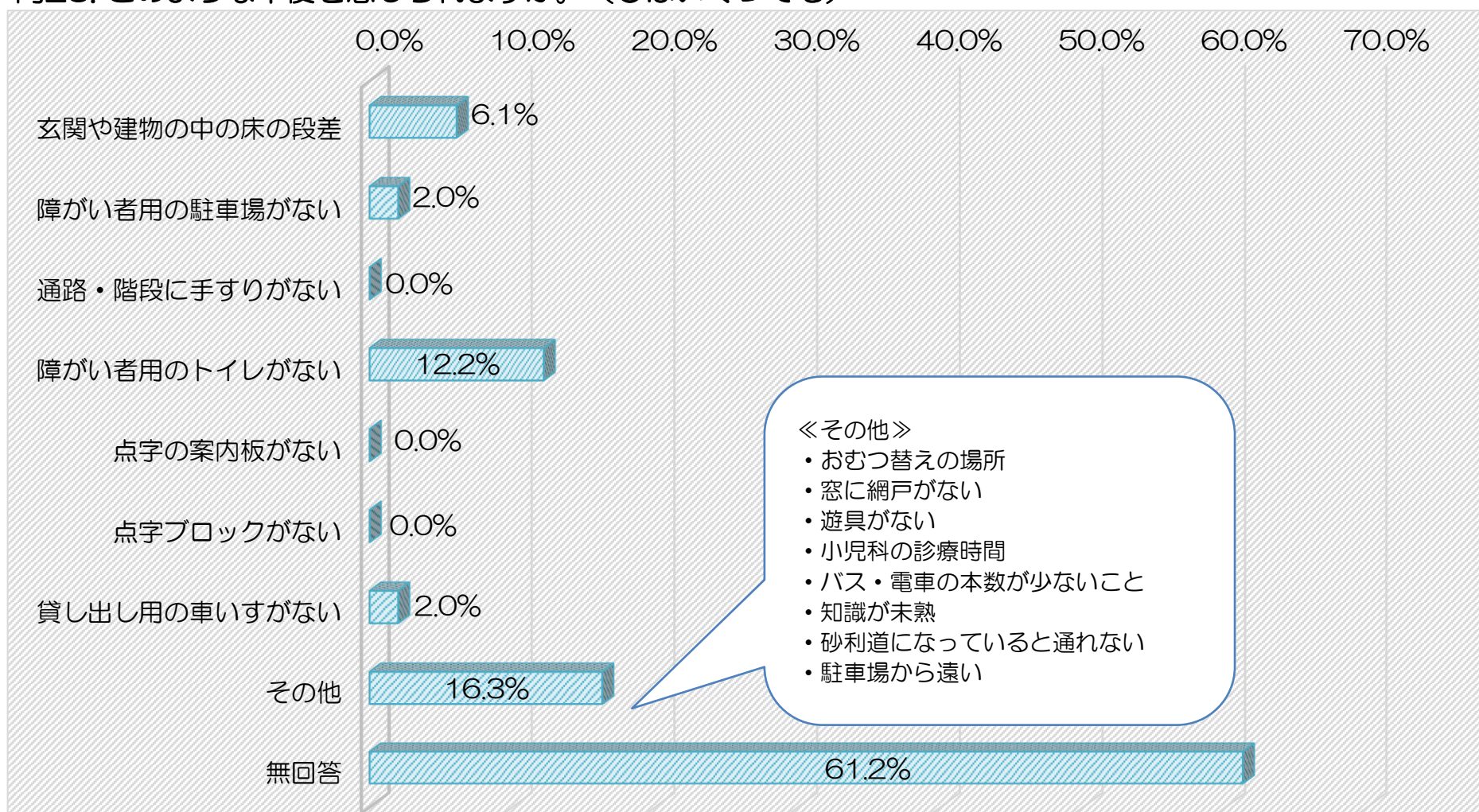
問22. 町内の公共施設について、どの施設で不便を感じられますか。（〇はいくつでも）



※合計が100%とならない場合があります。

「感じていない」(44.4%)が最も多く、以下「町立病院」(14.8%)、「無回答」(9.3%)となっている。

問23. どのような不便を感じられますか。（〇はいくつでも）

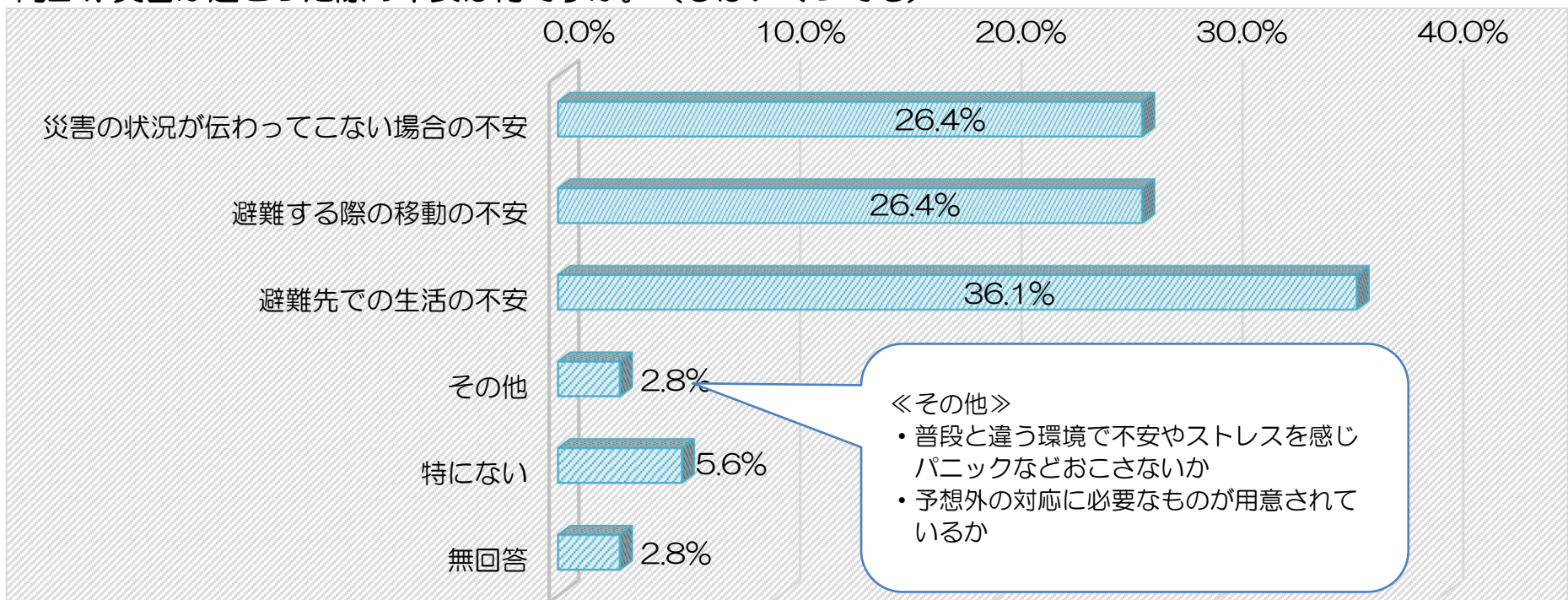


※合計が100%とならない場合があります。

「無回答」(61.2%)が最も多く、以下「その他」(16.3%)、「障がい者用のトイレがない」(12.2%)となっている。

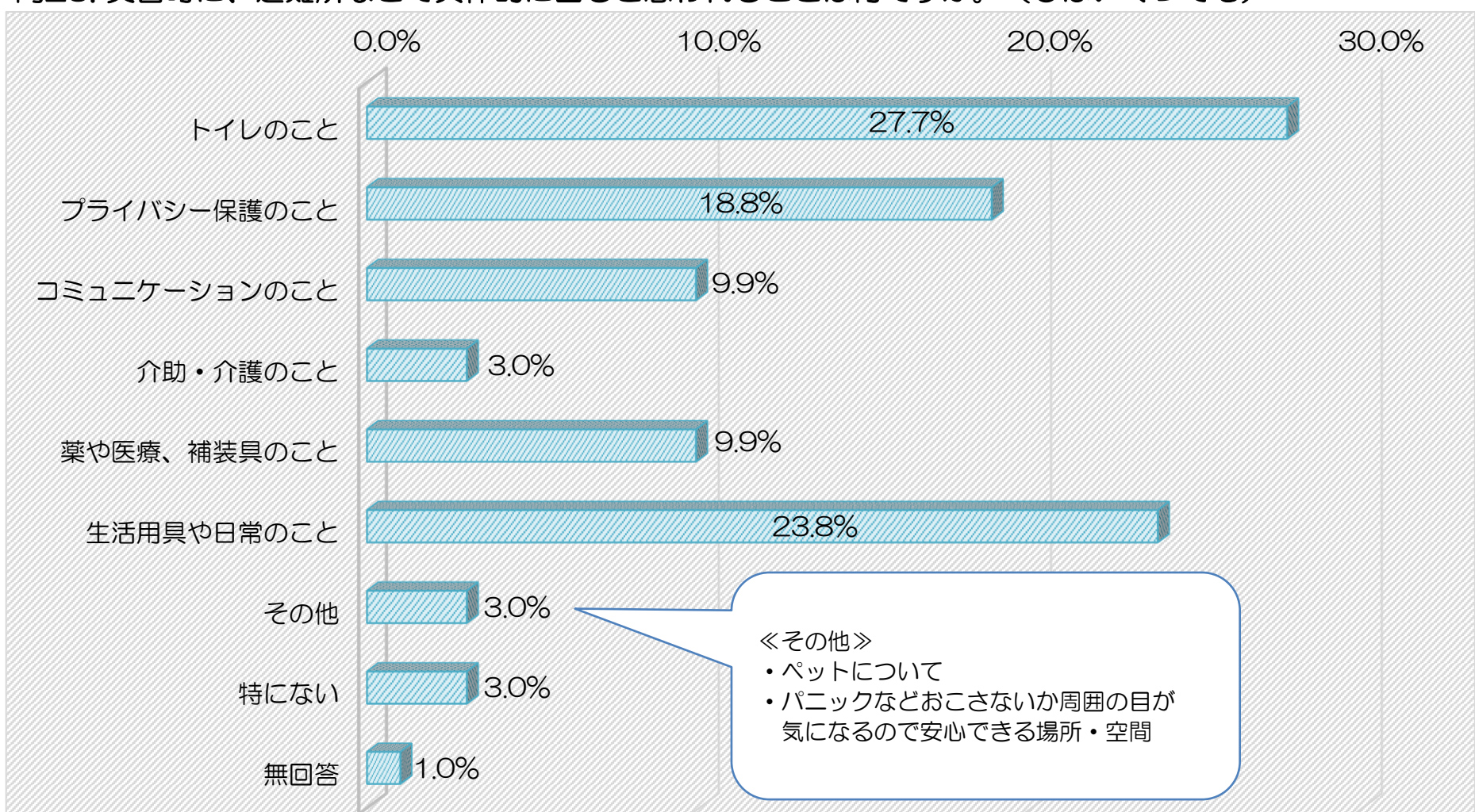
11 地域防災について

問24. 災害が起こった際の不安は何ですか。（〇はいくつでも）



「避難先での生活の不安」(36.1%)が最も多く、
以下「災害の状況が伝わってこない場合の不安」・「避難する際の移動の不安」(26.4%)の順になっている。

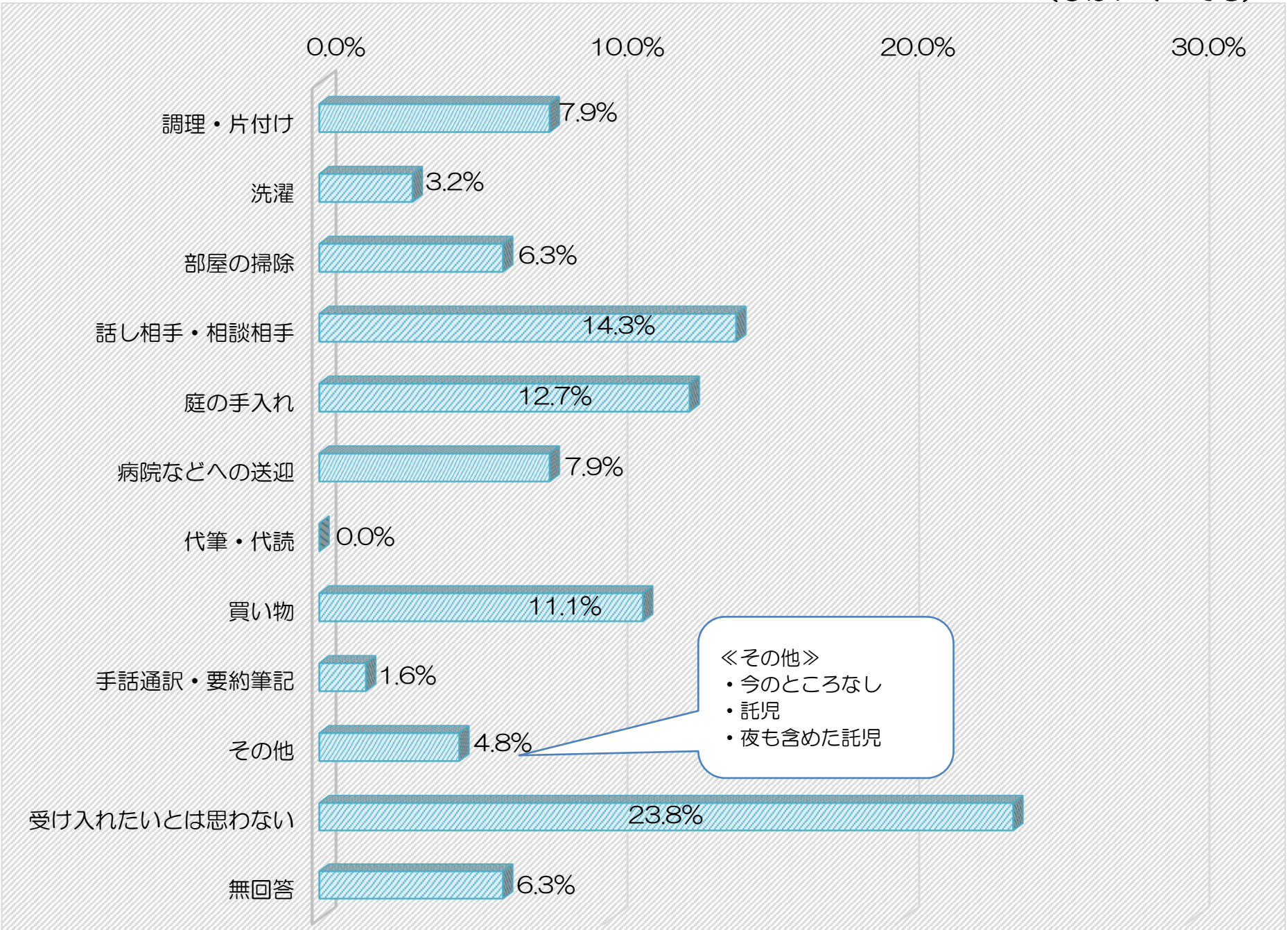
問25. 災害時に、避難所などで具体的に困ると思われることは何ですか。（〇はいくつでも）



「トイレのこと」(27.7%)が最も多く、以下「生活用具や日常のこと」(23.8%)、
「プライバシー保護のこと」(18.8%)の順となっている。

12 地域福祉や障がいへの理解について

問26. 日常の援助などをボランティアが行うとしたら、どのようなサービスを受けたいと思いますか。
(〇はいくつでも)



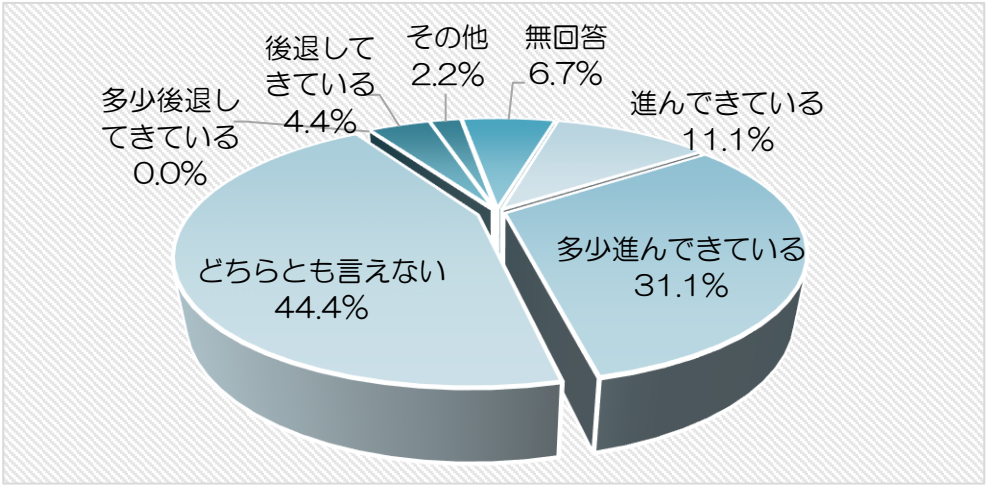
※合計が100%とならない場合があります。

「受け入れたいとは思わない」(23.8%)が最も多く、以下「話し相手・相談相手」(14.3%)、「庭の手入れ」(12.7%)となっている。

問27. 「障がい」に対して、広く市民の理解や地域・行政の社会的な支援が進んでいると思いますか。

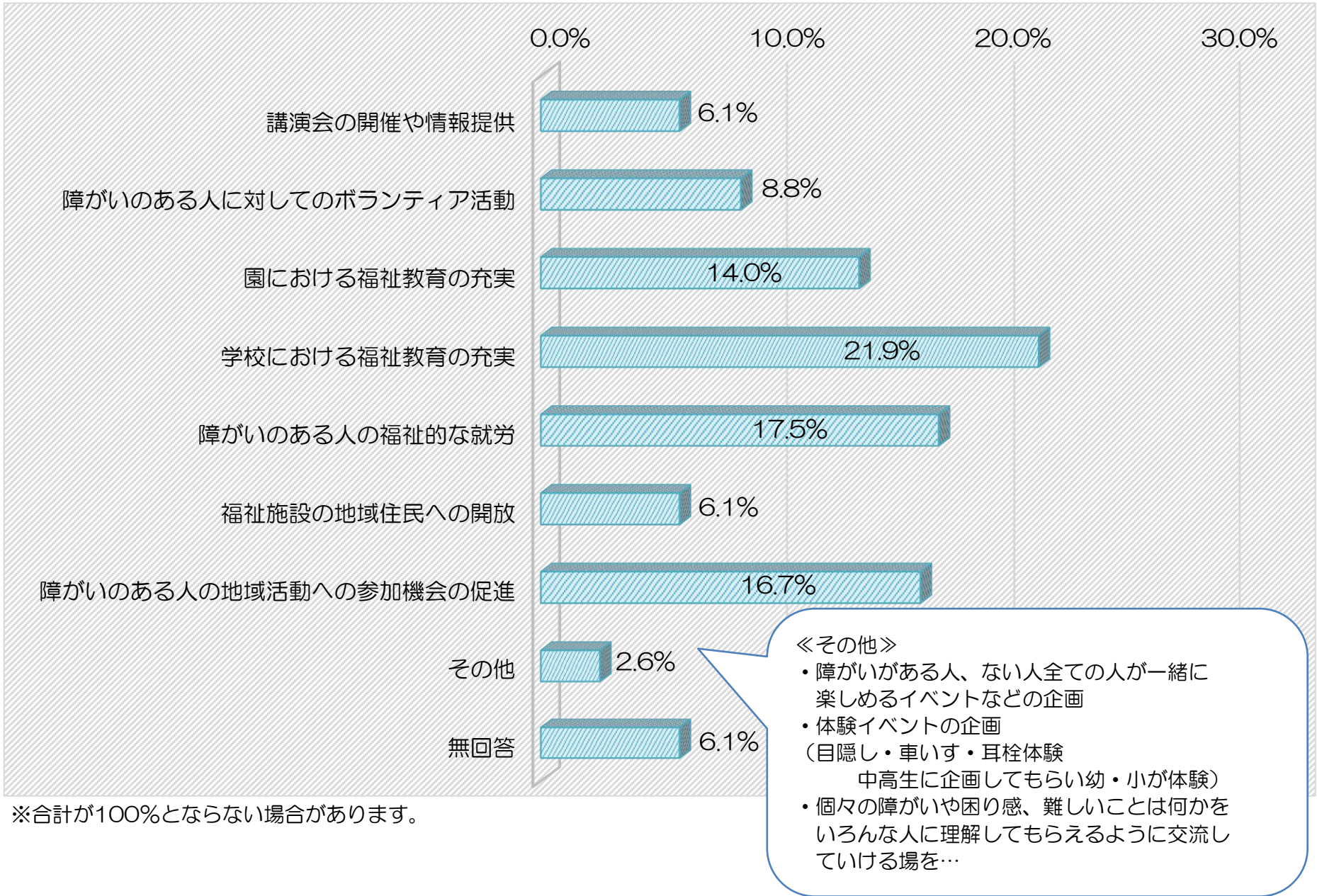
回答	件数	%
進んでいる	5	11.1%
多少進んでいる	14	31.1%
どちらとも言えない	20	44.4%
多少後退している	0	0.0%
後退している	2	4.4%
その他	1	2.2%
無回答	3	6.7%

※合計が100%とならない場合があります。



「どちらとも言えない」(44.4%)が最も多く、以下「多少進んでいる」(31.1%)、「進んでいる」(11.1%)の順となっている。

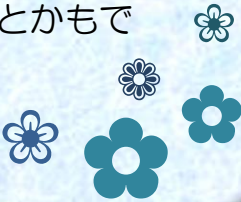
問28. 「障がい」に対する市民の理解を深めるためには、何が必要と思いますか。（〇はいくつでも）



「学校における福祉教育の充実」(21.9%)が最も多く、以下「障がいのある人の福祉的な就労」(17.5%)、
 「障がいのある人の地域活動への参加機会の促進」(16.7%)の順となっている。

ご意見やご要望、生活の中での困りごとがございましたら、ご自由にお書きください。

- 町立病院でオムツ替えや、子どものトイレの利用がしづらいついています。コロナの影響で座る間隔をあけるようになり、小児科の前のイスも外科の方たちで埋まっていた子どもが座れないことも最近でてきました。小児科はせいぜい1席でも空けておいてもらえると助かります。
- 今の生活での言葉の不安はあるが、身体の不安は少ない。見た目の障がいはないのでこのアンケートは難しかったです。
- 返事は時間がある時にメールでもよいので親が相談できる場があるとありがたいなあといます。あの時、子どもはどういう気持ちだったか？ふとしたことの質問はあとになると忘れてしまうので、指導の最中にメールで送っててもいいですよ～などがあるといいなあと思いました。
- 今は、人と人が会って話し合いをするということも色々大変な時だとは思いますが、色々な人がお互いの意見を交換できる場が持てると良いと思います。
- 土・日・祝日に子どもが室内で遊べる施設があればいいと思う。料金がかかっても良いから食事とかもできるスペースがあればと思う。
- 利用できる制度の情報が少ないです。送迎制度があると通いやすいと思います。



《調査概要》

障がいのある方の福祉に関する計画をつくるにあたり、このアンケートを実施しました。

- ① 調査対象
＞ 町内で障がい福祉サービスを実施している法人・事業所等
- ② 調査対象件数
＞ 12件
- ③ 調査方法
＞ 郵送による調査
- ④ 調査期間
＞ 発送：令和2年9月11日（金） 締切：令和2年10月2日（金）
- ⑤ 回収数（率）
＞ 12件（100%）



《調査結果》

1 事業所の運営状況について

問1と問8. 事業所の運営状況と、今後の提供意向について

居宅介護(ホームヘルプ)

【現在の提供状況】				【今後の意向】	
事業所	定員	実利用者数	うち白老町利用者数	新規利用受入	今後の予定
D		3名	3名	状況により可能	現状維持
K		8名	5名	不可能	現状維持
L		5名	5名	状況により可能	現状維持
合計		16名	13名		

短期入所(ショートステイ)

【現在の提供状況】				【今後の意向】	
事業所	定員	実利用者数	うち白老町利用者数	新規利用受入	今後の予定
B		1名	0名	状況により可能	無回答
F		28名	7名	状況により可能	無回答
J		無回答	無回答	状況により可能	現状維持
合計		29名	7名		

生活介護

【現在の提供状況】				【今後の意向】	
事業所	定員	実利用者数	うち白老町利用者数	新規利用受入	今後の予定
B	45名	44名	0名	不可能	無回答
C	55名	55名	2名	状況により可能	現状維持
F	80名	218名	30名	状況により可能	現状維持
I	20名	27名	16名	可能	無回答
J	110名	無回答	無回答	可能	現状維持
合計	310名	344名	48名		

就労継続支援(A型)

【現在の提供状況】				【今後の意向】	
事業所	定員	実利用者数	うち白老町利用者数	新規利用受入	今後の予定
A	20名	29名	4名	状況により可能	現状維持
合計	20名	29名	4名		

就労継続支援(B型)

【現在の提供状況】				【今後の意向】	
事業所	定員	実利用者数	うち白老町利用者数	新規利用受入	今後の予定
F	40名	49名	23名	不可能	現状維持
I	20名	32名	25名	可能	現状維持
合計	60名	81名	48名		

施設入所支援

【現在の提供状況】				【今後の意向】	
事業所	定員	実利用者数	うち白老町利用者数	新規利用受入	今後の予定
B	40名	40名	0名	不可能	無回答
C	50名	50名	2名	状況により可能	現状維持
J	90名	無回答	無回答	可能	現状維持
合計	180名	90名	2名		

共同生活援助(グループホーム)

【現在の提供状況】

【今後の意向】

事業所	定員	実利用者数	うち白老町利用者数	新規利用受入	今後の予定
F	98名	97名	30名	状況により可能	無回答
G	12名	12名	5名	不可能	現状維持
I	38名	35名	21名	状況により可能	無回答
合計	148名	144名	56名		

日中一時支援

【現在の提供状況】

【今後の意向】

事業所	定員	実利用者数	うち白老町利用者数	新規利用受入	今後の予定
F		0名	0名	状況により可能	
合計		0名	0名		

児童発達支援

【現在の提供状況】

【今後の意向】

事業所	定員	実利用者数	うち白老町利用者数	新規利用受入	今後の予定
E		0名	0名	可能	拡大
H		43名	43名	可能	現状維持
合計		43名	43名		

放課後等デイサービス

【現在の提供状況】

【今後の意向】

事業所	定員	実利用者数	うち白老町利用者数	新規利用受入	今後の予定
E		17名	17名	可能	拡大
H		26名	26名	可能	現状維持
合計		43名	43名		

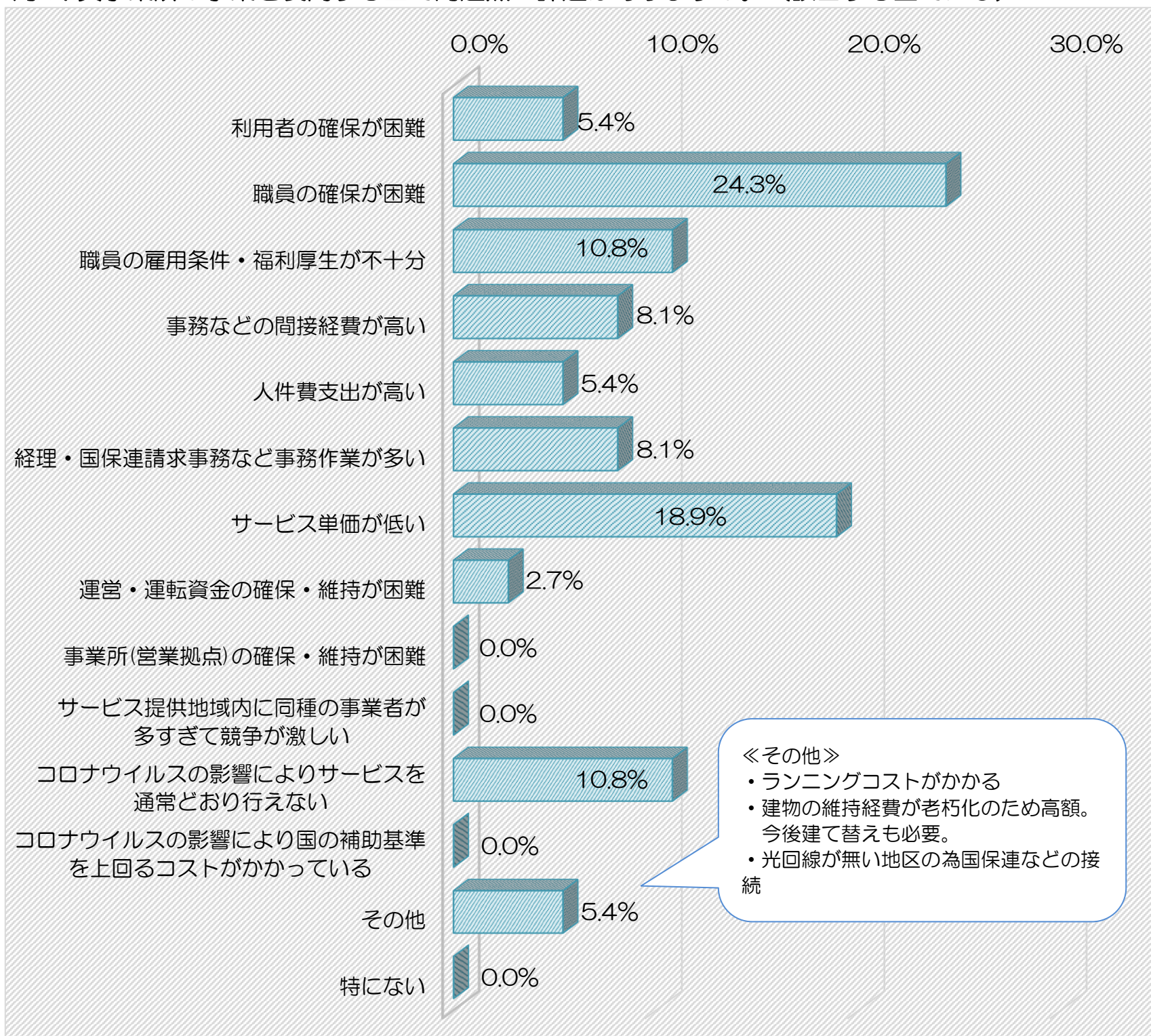
問2. 過去3年間に一般就労に移行した人数

(就労移行支援・就労継続支援A型・就労継続支援B型事業所のみ回答)

	就労継続A型事業所		就労継続B型事業所	
	利用者	一般就労移行者	利用者	一般就労移行者
H29	27名	1名	74名	0名
H30	24名	1名	75名	0名
R元年	30名	2名	76名	0名

2 事業所の現状と課題について

問3. 貴事業所が事業を展開する上で問題点・課題はありますか。（該当する全てに○）



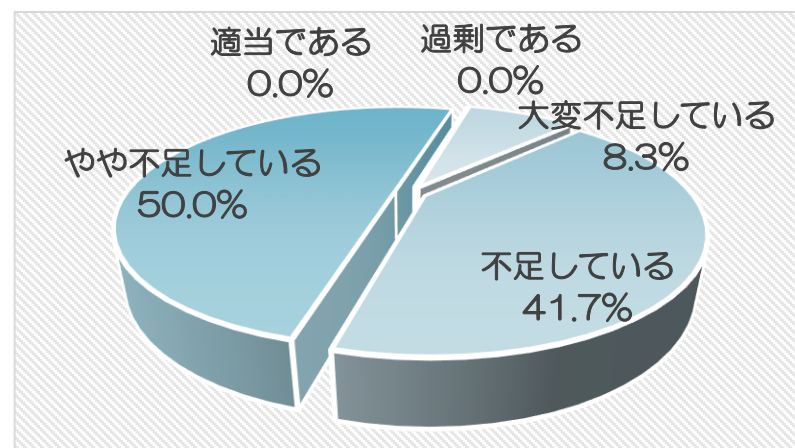
※合計が100%とならない場合があります。

「職員の確保が困難」(24.3%)が最も多く、以下「サービス単価が低い」(18.9%)、「職員の雇用条件・福利厚生が不十分」・「コロナウイルスの影響によりサービスを通常どおり行えない」(10.8%)の順となっている。

問4. 現在の職員の過不足は、次のうちどれですか。（○は1つ）

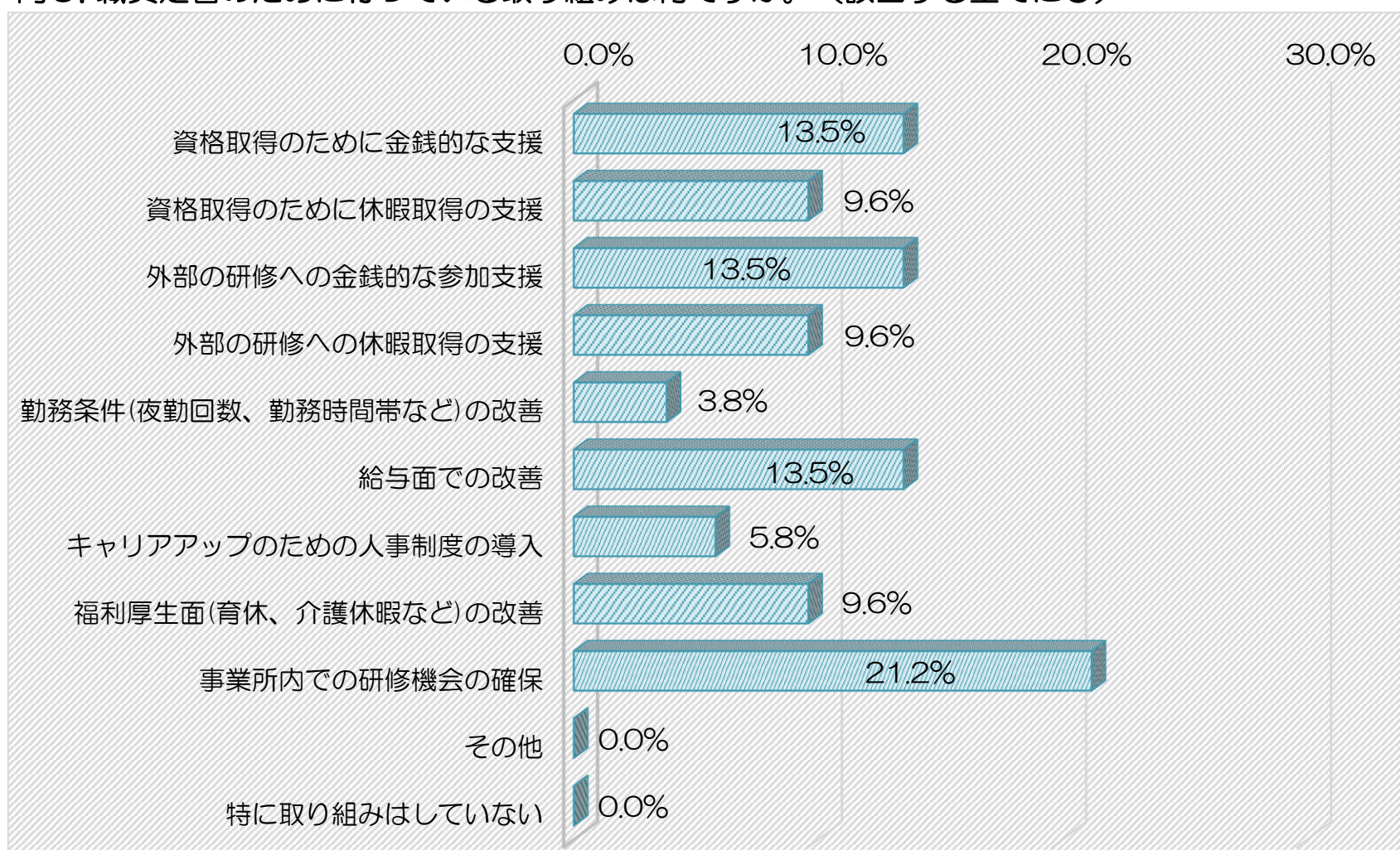
人数	件数	%
大変不足している	1	8.3%
不足している	5	41.7%
やや不足している	6	50.0%
適当である	0	0.0%
過剰である	0	0.0%

※合計が100%とならない場合があります。



「やや不足している」(50.0%)が最も多く、以下「不足している」(41.7%)、「大変不足している」(8.3%)の順となっている。

問5. 職員定着のために行っている取り組みは何ですか。（該当する全てに○）

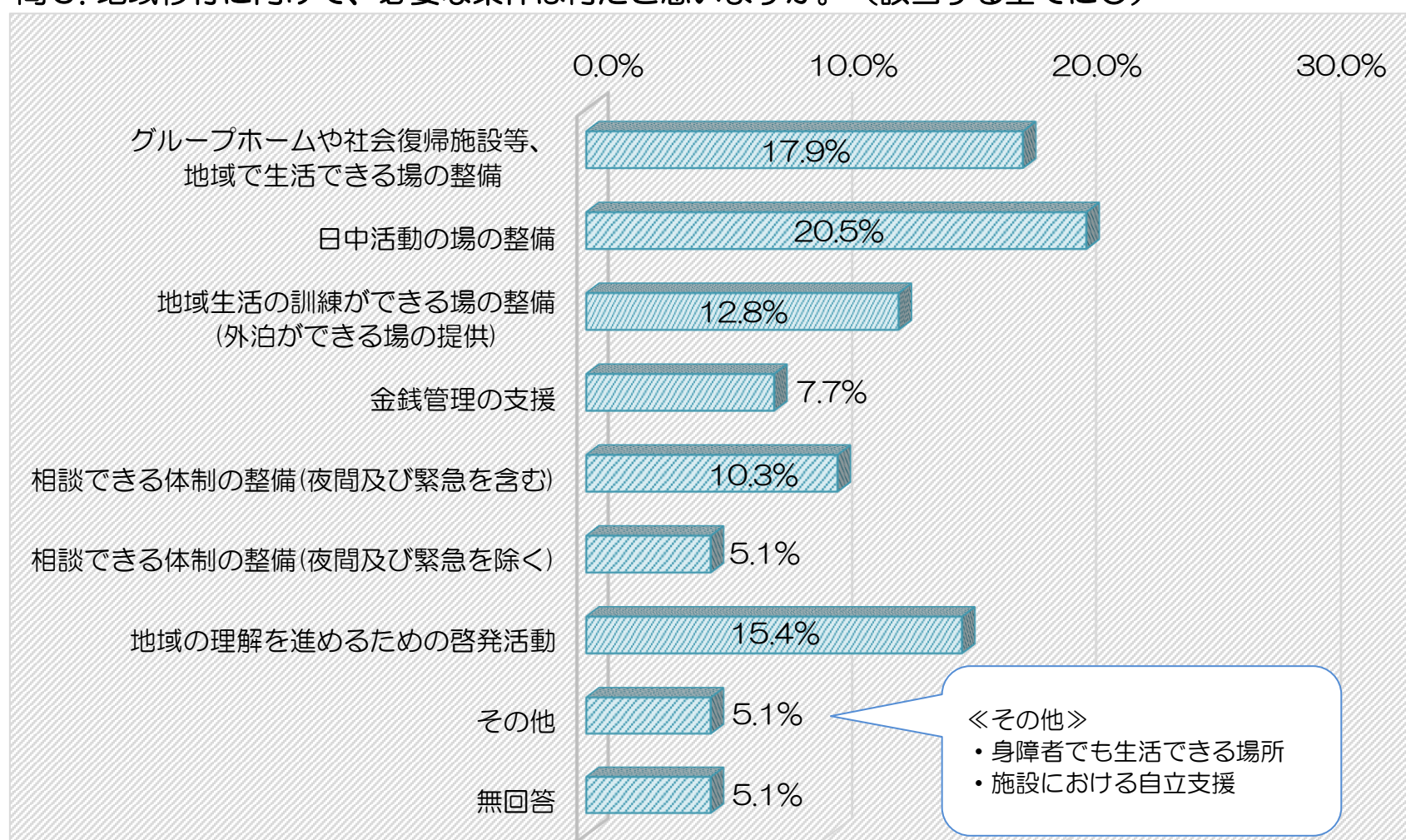


※合計が100%とならない場合があります。

「事業所内での研修機会の確保」(21.2%)が最も多く、以下同率で「資格取得のために金銭的な支援」「外部の研修への金銭的な参加支援」「給与面での改善」(13.5%)の順となっている。

3 一般就労及び地域移行への取組について

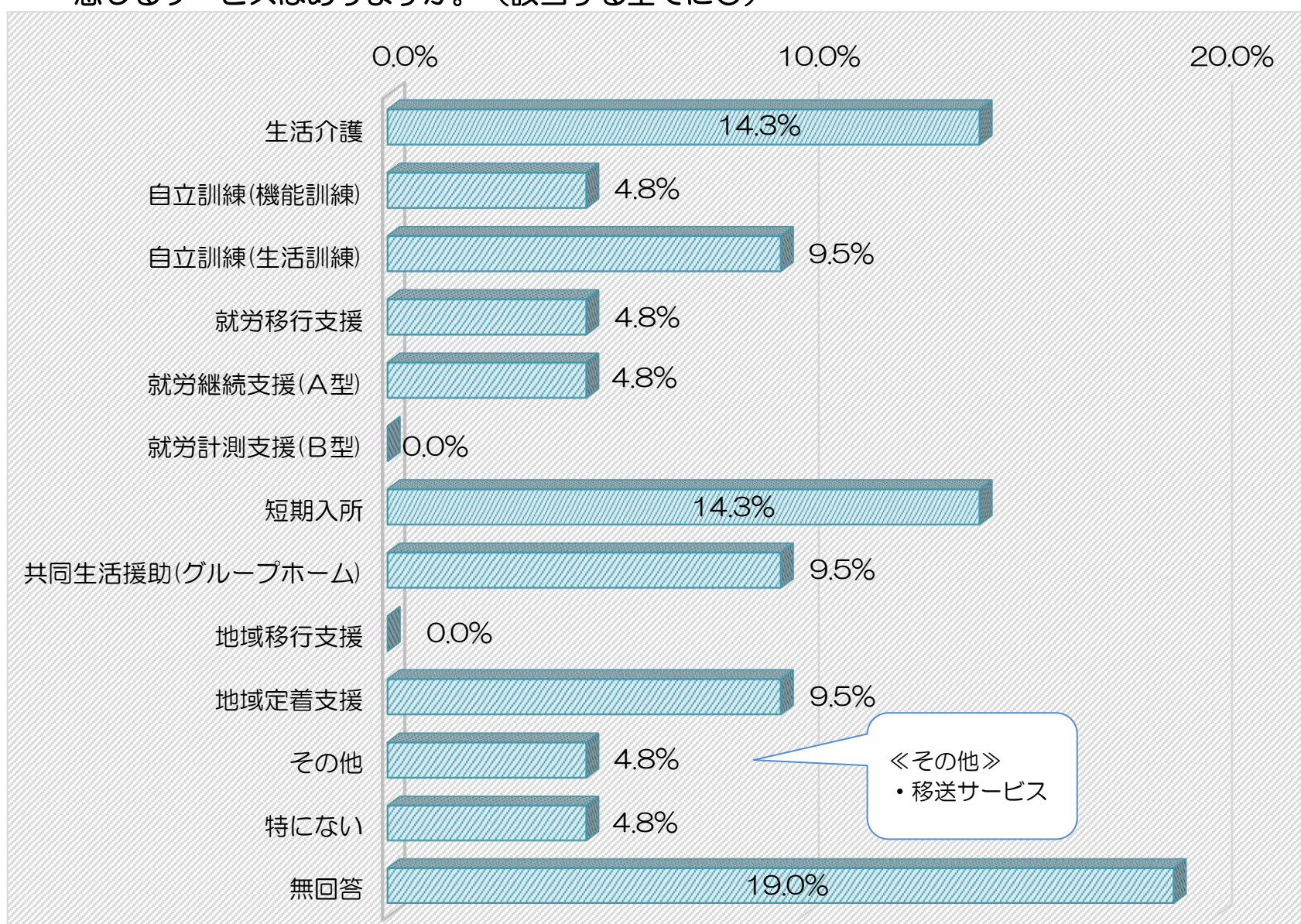
問6. 地域移行に向けて、必要な条件は何だと思いますか。（該当する全てに○）



※合計が100%とならない場合があります。

「日中活動の場の整備」(20.5%)が最も多く、以下「グループホームや社会復帰施設等、地域で生活できる場の整備」(17.9%)、「地域の理解を進めるための啓発活動」(15.4%)の順となっている。

問7. 利用者の一般就労及び地域移行に向けて、貴事業所から見て、町内に不足していると感じるサービスはありますか。（該当する全てに○）



※合計が100%とならない場合があります。

「無回答」19.0%が最も多く、以下「生活介護」・「短期入所」(14.3%)の順となっている。

ご意見やご要望、生活の中での困りごとがございましたら、ご自由にお書きください。

【C事業所】

◎利用者の高齢化に伴い各関係機関との連携が必要です。例えば、胃ろう・鼻腔栄養等になった時、関係機関の受入れ体制の充実等。

【D事業所】

◎現在、ホームヘルパーの求人に対し、応募は皆無で、職員の確保が出来ないことが難題です。
今後の事業の継続を考える中では、障害福祉サービスの休止、訪問介護事業の休止までもありえます。福祉の精神で行っているものの、事業者にとっては採算の合わない事業で、働く人にとっては大変な割に低賃金な職業という位置づけは、日本全国同じことと思います。
日中活動系や居住系のサービスは専門外ですので詳しくはわかりませんが、人口規模の割にはサービスは充実しているような気がしています。他の市町村に比べてという意味です。
利用者さん個々のニーズを満たすには、より多様な施策やサービスも必要なのではと思いますが、現状で出来る範囲のことは出来ていると思います。

【E事業所】

◎子供達のため、職員一同皆様に色々のご指導いただきながら頑張っていきたいと思っております。

【F事業所】

◎災害対策

- ・太平洋沖の大地震による津波が白老町では9メートルと予想されていることから、法人内では避難先の変更や対応について検討を進め、実際の避難訓練につなげておりますが、障害特性上一般の避難所で過ごすには限界があると感じております。
一般の避難所で過ごすのが困難な場合に使用可能な建物が存在するのかなど課題は多く、季節や天候、食料や寝具、薬や医療など避難後に間違いなく発生する課題も見えてきます。
- ・竹浦地区の津波一時避難所の指定を受けている建物を、知的障害者の避難所として活用することも可能かと考えますが、町として津波避難における障がい者等の受入れ実施計画をお願いいたします。
- ・施設利用中以外で在宅の障がい者等災害弱者（自主避難が困難な方）の把握と避難方法についても検討をお願いしたい。

◎成年後見

- ・現在、高齢化に伴い保護者が死亡するケースが増えております。資産管理を主体とした現成年後見ではなく、利用契約や日々の金銭管理、医療相談などを日常生活時の意思決定を担保できる成年後見人等の必要性が高まっていると考えております。
町として、安価で持続可能な成年後見人等の整備を考えていただきたいと思います。

◎実態調査と情報の集積による計画

- ・個人情報への為、調査に限界を感じていることと思われませんが、引きこもりの増加や長期化、障害認定につながらないケース、保護者の理解不足や偏見、障害認知の不足など数値に反映されていない部分が一定度あることと思いますが、埋もれている情報を保健師さんや各行政窓口、地域民生委員等からの情報集積により、主体的に町として必要なサービスの種類やサービス量の方向性を考えることも必要ではないでしょうか。

【H事業所】

◎3障がいといわれれば、どうしても対応が難しくなっている。当施設は身障の方を中心に受け入れてきた経過があり、最近では知的・精神分野でADLが低下してきた方の相談が非常に多い。人材育成、環境整備（構造化など）が必要となり、受け入れが困難となりえるケースが増えてきている。そういった方のサービスなり、事業所が幅を拡げることが出来る資金面・サービス価格が出来てくれば、サービスからもれる方が減るのではないかと思います。

◎相談支援事業所がより力を発揮できるよう、報酬面でのアップや人材育成に力を入れていく仕組みを導入して欲しい。事業所の力量によって大きく左右されることや、施設部門がまだ中心となり動きが必要となっている部分があるので…。

【L事業所】

◎ホームヘルパーの担い手が不足している。利用希望があっても受け入れが難しい状況にある。この傾向は年々悪化してきており、近い将来サービス提供が困難になることが予想される。
ホームヘルプサービスは、在宅生活の根幹となるサービスであることから、このサービス供給体制の維持を行政が責任をもって支援して頂きたい。



計画書の説明

＊「障害」「障がい」の表記について

白老町では、ノーマライゼーションの理念として、「心のバリアフリー」を推進するため、「障害」の「害」の字をひらがなで表記することとしております。（「障がいのある方」など）

ただし、国の法令などに基づく制度や固有名詞などの表記は従来そのままとします。

（「身体障害者手帳など」）

西暦対比表

令和元年-----2019年

令和2年-----2020年

令和3年-----2021年

令和4年-----2022年

令和5年-----2023年

令和6年-----2024年

令和7年-----2025年

令和8年-----2026年

第4期白老町障がい者福祉計画

第6期白老町障がい福祉計画

第2期白老町障がい児福祉計画

発行 令和3年3月

編集 白老町健康福祉課

白老町子育て支援課

〒059-0904

北海道白老郡白老町東町4丁目6番7号

TEL（0144）82-5541

FAX（0144）82-5561

E-Mail：fukusi@town.shiraoi.hokkaido.jp

kodomo@town.shiraoi.hokkaido.jp



多文化共生のまち、しらおい

◇ 北海道 白老町 ◇